

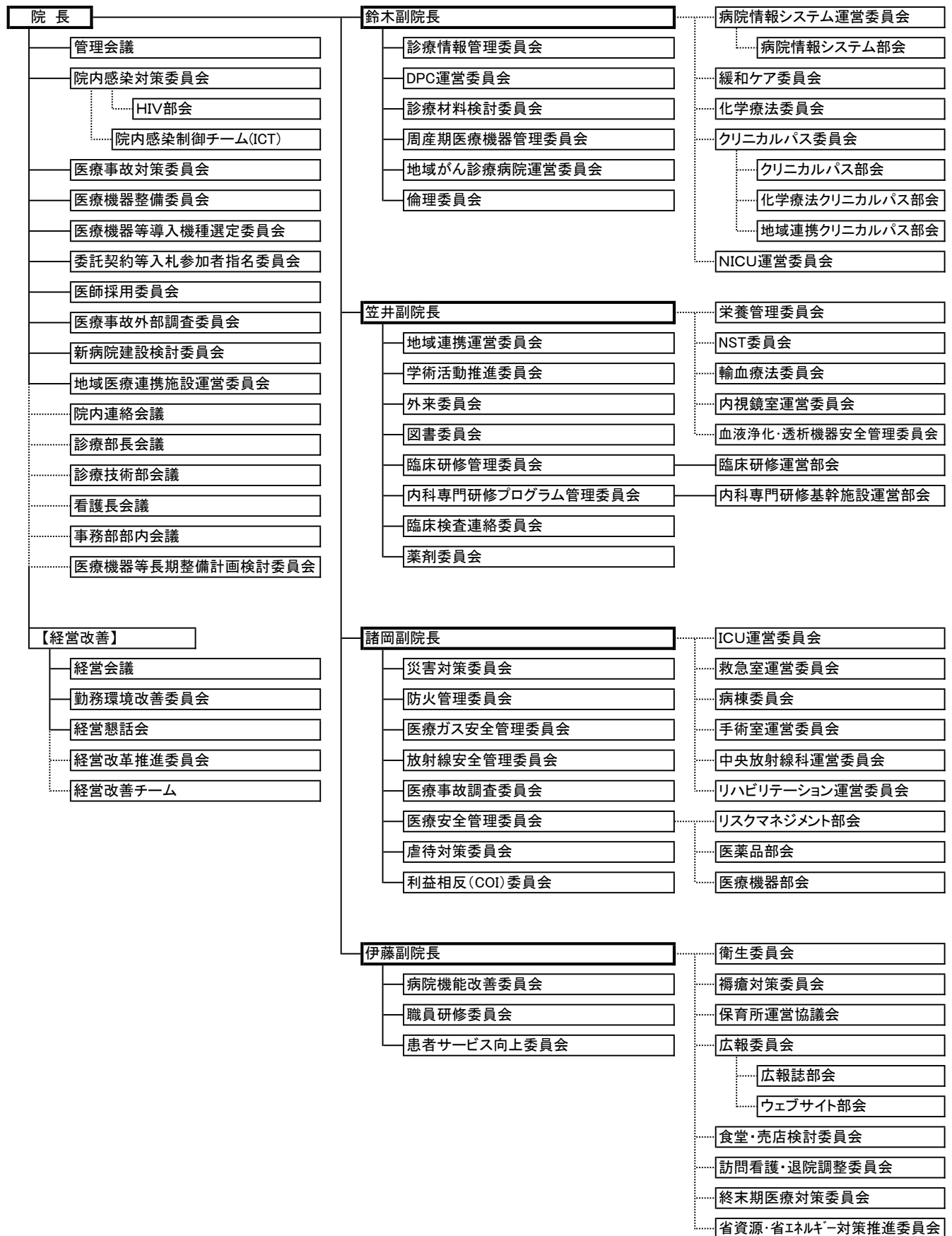
17 院内各種委員会等の活動実績

各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
135	衛生委員会	175	I C U運営委員会
136	保育所運営協議会	177	医療事故調査委員会
137	D P C運営委員会	178	医療事故対策委員会
139	職員研修委員会	179	病院情報システム運営委員会
140	図書委員会	180	血液浄化・透析機器安全管理委員会
141	診療情報管理委員会	182	周産期医療機器管理委員会
142	医療機器整備委員会	183	地域連携運営委員会
143	手術室運営委員会	184	患者サービス向上委員会
145	薬剤委員会	186	学術活動推進委員会
147	医療ガス安全管理委員会	187	病棟委員会
148	臨床研修管理委員会	188	勤務環境改善委員会
150	院内感染対策委員会	189	外来委員会
151	倫理委員会	191	放射線安全管理委員会
152	訪問看護・退院調整委員会	193	災害対策委員会
153	栄養管理委員会	195	防火管理委員会
154	中央放射線科運営委員会	196	虐待対策委員会
155	臨床検査連絡委員会	197	臨床研修センター
156	救急室運営委員会	198	富士市透析防災ネットワーク
157	内視鏡室運営委員会	200	利益相反（C O I）委員会
158	褥瘡対策委員会	201	N I C U運営委員会
160	クリニカルパス委員会	202	地域がん診療病院運営委員会
162	病院機能改善委員会	203	リハビリテーション運営委員会
164	N S T委員会	204	経営改善チーム
166	輸血療法委員会	205	医療機器等導入機種選定委員会
167	医療安全管理委員会	206	省資源・省エネルギー対策推進委員会
169	緩和ケア委員会		終末期医療対策委員会
170	広報委員会		内科専門研修プログラム管理委員会
171	食堂・売店検討委員会		医療機器等長期整備計画検討委員会
172	経営改革推進委員会		新病院建設検討委員会
173	化学療法委員会		喫煙対策委員会
174	診療材料検討委員会		

委員会・各種会議 組織図

(平成30年4月1日現在)



■衛生委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
副委員長	千葉 博胤（小児科）	副委員長	道躰 隆行（外科）
委員	飛澤 香奈（薬剤科）	委員	大野 成美（臨床検査科）
委員	井出 敦之（中央放射線科）	委員	小田 純市（リハビリテーション科）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	河合 良和（ICU）
委員	本間 竜也（7A病棟）	委員	櫻井 直美（6B病棟）
委員	越智 悦子（3B病棟）	委員	三谷 芳子（4B病棟）
委員	山田 順一（外来C）	委員	倉島 志保（4A病棟）
委員	角入 あゆ美（病院経営課）	委員	島田 英介（医事課）
産業医	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	事務局	井出 大介（病院総務課）

概要 労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

2 開催回数

1回／月

3 平成30年度の取組実績

(1) 定期健康診断の実施

（一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断など）

(2) ワクチン接種

（インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診）

（MR ワクチン接種）

(3) 安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）

(4) 病棟職場巡視

4 来年度の課題

(1) 健康診断の受診率100%を目指し、職員への周知を図るとともに、要受診者等に対するフォローを徹底する

(2) 公務災害・労働災害件数を減らす

(3) 職場巡視を行い職員の安全・安心を守る

(4) 病院敷地内含む禁煙の検討

（文責 木村 哲夫）

■保育所運営協議会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	大沼 幹雄（事務部長）	副会長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
会員	渡辺 利英（病院総務課）	会員	岩崎 竜也（職員組合）
会員	鈴木 千恵美（父母代表）	会員	内藤 榮一（緑が丘保育園園長）
会員	佐藤 恵津子（保育所）	事務局	加藤 菜緒（病院総務課）

2 開催回数

2回

3 平成30年度の取組実績

仕事と育児の両立ができる働きやすい職場環境整備の一環として、院内保育所の役割を協議するため、平成30年7月23日（月）と平成30年8月21日（火）に保育所運営協議会を開催した。

来年度からの実施として、以下の項目について協議し、運営要領を改訂した。

①一時保育の実施について

通常他の保育園等を通っている乳幼児についても、職員の勤務日に限り、その施設の都合により利用できない場合、院内保育所を利用できる制度を新設した。

②保育料の一部改定について

正規職員の離職防止や育休からの早期復帰を促進する施策として、月額保育料の算定基準としている富士市保育料表の月額保育料に0.8を乗じた額に改定することを決定した。

4 来年度の課題

働きやすい環境づくりの一環として、職員からの要望に沿った院内保育所を運営するため、職員・利用者・保育所間の情報共有を緊密にし、新たな取り組みや運営改善に努め、利用者拡充を目指す。

来年度は、保育料に関して保育料表における階層区分の高い部分に集中する正規職員を対象に改定を実施するが、対象の拡充や定額制への移行に関しても継続して協議を行う。

また、近隣の院内保育所や市内保育園の運営状況を踏まえつつ、利用者からの意見を大切にして、より良い保育環境の構築を目指す。

（文責 大沼 幹雄）

■ D P C 運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	道躰 隆行 (外科)	委員	鈴木 俊雅 (外科) (1月~)
委員	三澤 延司 (薬剤科)	委員	山本 純子 (臨床検査科)
委員	小林 由美 (6 B 病棟)	委員	木内 啓人 (病院経営課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	島田 英介 (医事課)
事務局	寺田 和子 (医事課)	事務局	杉山 彩 (医事課)

2 開催回数

12 回 (毎月 1 回、第 4 木曜日)

3 平成 30 年度の取組実績

DPC 運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC 症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPC や診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度は平成 30 年度診療報酬改定による影響検証 (看護必要度、DPC 設定意日数短縮による影響度分析等) と新規申請施設基準の検討、適時調査による対策、機能評価係数の対策として救急医療管理加算の算定状況確認、向精神薬の長期処方による研修会と対策検討、院内全体向け診療報酬研修会を 9 月と 3 月の 2 回開催した。診療報酬研修会では 9 月は 76 名、3 月は 112 名の参加があった。

4 来年度の課題

令和 2 年度診療報酬改定の情報収集と対策と、査定率管理、査定の精査と情報提供方法について検討を行う。

【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

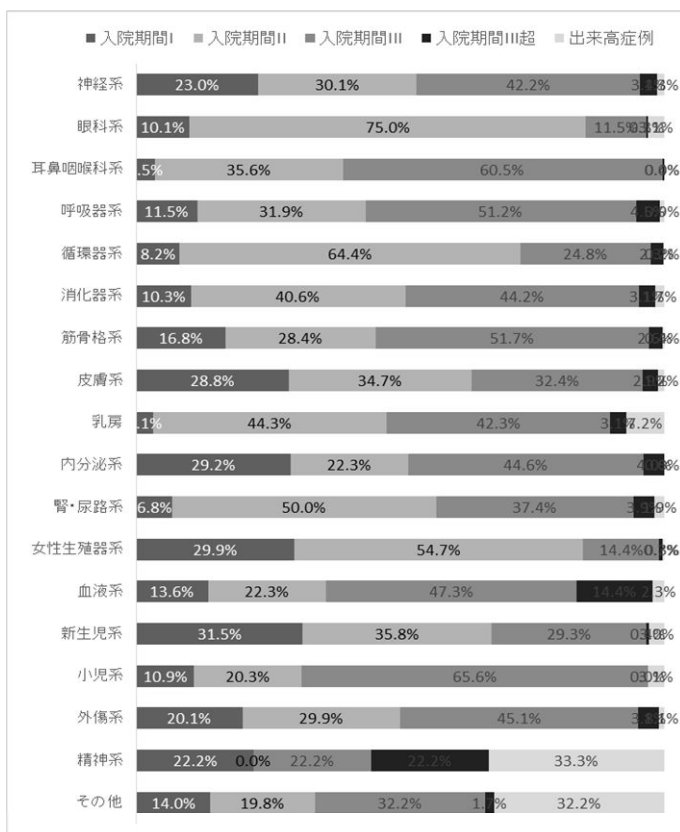
D P C 統 計：出来高比稼働額統計、DPC 症例 (平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等)、臨床評価指標 (死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等)、DPC 件数、増収、減収 TOP20

D P C 分 析：県下 3 群病院機能評価係数 II 分析

DPC 入院期間比率



DPC MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国のDPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は**入院期間Ⅱ**が全国平均の入院期間である。

DPC ではこの入院期間Ⅱまでの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する**効率性係数**という部分に影響する。またDPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、**データ提出係数**という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、1日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

(文責 後藤 博一)

■職員研修委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	高橋 康人 (腎臓内科)
副委員長	大石 悦子 (副看護部長)	委員	野田 文子 (臨床検査科)
委員	岡田 和教 (中央放射線科)	委員	飛澤 香奈 (薬剤科)
委員	木下 和佳 (手術室)	委員	鈴木 かほり (4 B病棟)
委員	佐野 幸代 (5 B病棟)	委員	遠藤 雅和 (6 B病棟)
委員	岩間 由加里 (7 B病棟)	委員	鈴木 道代 (3 B病棟)
委員	小池 博也 (病院経営課)	委員	川口 愛美 (医事課)
事務局	中村 崇人 (病院総務課)		

2 開催回数

11回 (内5回は講演会) 不定期

3 平成30年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和60年7月1日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画及び先進病院等の視察。

平成30年度はパワーハラスメント研修を実施。事例を用いるなどして職員それぞれに当事者意識を持たせ、理解を深めることで、「パワーハラスメントによる職員のモチベーション低下」や「メンタルヘルス問題の増加」の防止に努めた。研修は管理職向けを2回、一般職向けを1回開催し、合計135名の参加があった。

また、職員一人ひとりが認知症を正しく理解し、知識を習得することが通常業務においても有益であると考え、昨年度に引き続き認知症サポーター養成講座を開催し、職員75名の申し込みがあった。

先進病院等の視察では、研修委員会の委員13名で東京臨海広域防災公園を訪問。富士市の救護病院に勤める職員として、災害発生時には迅速かつ確かな判断が求められていることから、体験・学習・訓練を通じて、防災への関心を一層高め、災害に対応できる知識や技術を学んだ。

4 来年度の課題

職員の更なる能力向上のためのテーマを決め、研修会を計画する。

(文責 伊藤 すみ子)

■図書委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)	委員	高野 裕樹 (外科)
委員	宮坂 玄樹 (整形外科) ~6月	委員	笹本 翔平 (整形外科) 7月~
委員	大石 悦子 (副看護部長)	委員	木村 佳弘 (薬剤科)
委員	佐山 侑希 (病院総務課)	委員	塩澤 忠生 (医事課)
事務局	齋藤 智恵美 (医事課)		

2 開催回数

2回 (9月、11月)

3 平成30年度の取組実績

- ・年間で231冊の医学書籍の購入を行った。
- ・雑誌127誌の定期購読契約更新 (和雑誌105誌・洋雑誌22誌) を行った。
- ・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamIII」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
- ・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子書籍サービスの案内を全医師に対して行った。
- ・図書管理システムを7月に導入し、蔵書の電子管理を開始した。

4 来年度の課題

- ・医学雑誌の電子ジャーナル、電子書籍の導入をすすめるとともに、定期購読誌の見直しを行う。
- ・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
- ・図書室の利便性や機能性の向上、方向性について検討を行う。

(文責 河野 優)

■診療情報管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	三橋 真 (整形外科)	委員	津島 友央 (皮膚科)
委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)
委員	吉田 清哉 (外科)	委員	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	齋藤 洋実 (3 C病棟)	委員	塩澤 忠生 (医事課)
事務局	島田 英介 (医事課)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)

2 開催回数

3回 (5月、7月、12月)

3 平成30年度の取組実績

診療情報管理委員会では、以下の内容を検討・実施した。

- ・病院機能評価受審のため診療録の量的監査の方法と結果・実績方法の記録の残し方を検討した。監査マニュアルを作成し入院患者の情報収集を始め、結果が100%でないものは院内に情報提供できた。
- ・介護報酬改定に伴い、他施設から届く報告書類を診療録に取り込むこととした。
- ・産後ケア事業 (自治体が援助する産前産後の母体サポートケア) の情報について、患者は入院患者とし看護記録を残すこととした。
- ・遠隔放射線治療及び医療情報のセキュリティ対策に関する指針 (案) について病院情報システム運営委員会から依頼があり、これを承認した。
- ・サマリー作成率向上のため、診療科を細分化した資料を毎月診療部長会議へ提出、年間の退院後14日以内作成率は92.4%であった。
- ・その他、臨床指標の定期的計測、診療録廃棄、中央病歴管理室の新規業務としてNCD登録代行入力開始の報告を行った。

4 来年度の課題

退院後14日以内のサマリー作成率90%維持を働きかける。

病院機能評価の受審結果を受け、入院及び外来患者の診療録についても質的監査の方法を検討していく。

次年度より病院情報システム運営委員会と統合するため、電子カルテのよりよい運用を展開する。(文責 良元 和久)

■医療機器整備委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	西田 英明（臨床工学科）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
事務局	堤 恭子（病院総務課）		

2 開催回数

2回

3 平成30年度の取組実績

医療機器の適正なる整備を図ることを目的とし、医療機器適正管理検討部会の設置及び運営要領の策定を行った。また、令和元年度医療機器等購入要望のある所属に対してヒアリングを行った。

4 来年度の課題

令和元年度も引き続き医療機器等購入要望のヒアリングを行う。

（文責 柏木 秀幸）

■手術室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	井上 恒佳 (麻酔科)
副委員長	森本 泰江 (手術室)	委員	西村 礼司 (形成外科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	渡辺 勝 (眼科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	長谷川 潤 (循環器内科)	委員	諸岡 暁 (脳神経外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	池谷 幸一 (中央放射線科)
委員	諏訪部 新 (臨床工学科)	委員	池田 琢 (臨床検査科)
委員	石川 裕子 (手術室)	委員	望月 久子 (手術室)
委員	杉本 祐介 (手術室)	委員	芦川 牧子 (手術室)
委員	伊藤 輝美 (手術室)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	手術室		

2 開催回数

12回 (毎月1回、第4月曜日)

3 平成30年度の取組実績

- 1) 平成30年度に手術室を利用した手術は、総手術件数3,938件 (平成29年度4,010件, 平成28年度3,804件)、緊急手術560件 (491件, 559件)、定期手術3,378件 (3,519件, 3,245件)、全身麻酔手術1,871件 (1,800件, 1,654件)、全身麻酔以外2,067件 (2,210件, 2,150件)であった。手術件数の減少数は72件 (0.02%)であったが、主に定期の全身麻酔以外の手術の減少によるものであった。
- 2) 科別の手術時間の延長は平均42.6%と平成29年度に比べ4.2%減少した。又、定期手術の退出時間が午後5時以降となる件数も少なくなかった。
- 3) 手術枠を有効に使用するために各科にアンケートを施行し、定期的に見直した。

4 来年度の課題

- 1) 手術室の老朽化した診療機器の更新を行う
- 2) 手術スタッフの人手不足の改善に努める
- 3) 定期的に手術枠の見直しを行い、手術室の有効使用と定期手術の午後5時までの終了に努める
- 4) より安全かつ効率的に手術が行われるように努める

(文責 良元 和久)

平成30年度 手術室稼働統計

【緊急・定期別件数】

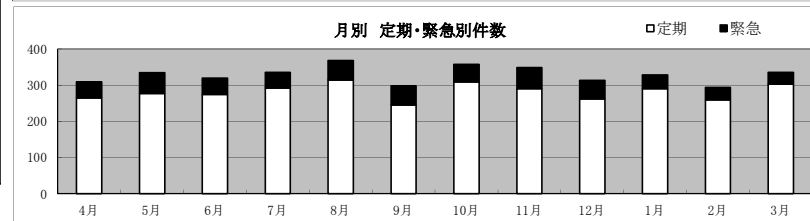
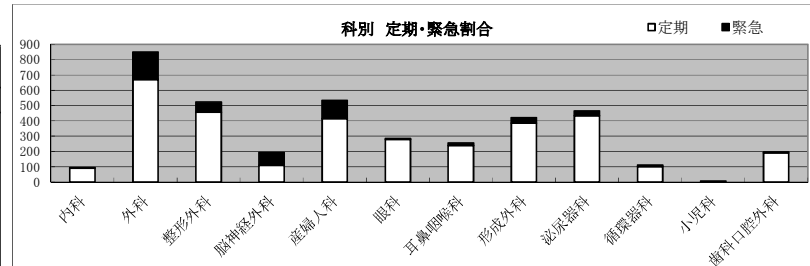
診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
		緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期
内科	95	1	7		10	1	5		2		7		5		8		7		9	1	10		10	1	11	4	91
外科	850	13	53	16	56	16	55	18	58	16	56	20	46	17	69	13	56	15	51	16	56	9	52	10	63	179	671
整形外科	523	6	36	7	39	2	40	5	40	7	43	7	36	4	38	9	33	7	35	5	41	4	36	4	39	67	456
脳神経外科	194	11	6	11	9	9	10	4	7	10	12	4	10	4	9	8	5	7	11	7	9	7	8	2	14	84	110
産婦人科	533	4	43	10	36	10	32	9	32	14	43	11	30	14	30	15	34	9	36	5	29	7	36	10	34	118	415
眼科	285		24	2	22		24		29		25	1	20		30	1	26		17	1	25		12		26	5	280
耳鼻咽喉科	256	4	17	2	17		20	2	25	2	25	1	16	1	22	4	23		19		16		17	2	21	18	238
形成外科	422	2	25	1	23	2	30	5	41	1	40	5	25	4	31	4	40	6	25	2	41	3	30	2	34	37	385
泌尿器科	465	3	31	6	39	1	31		33	2	34	2	31	3	47	3	41	6	38	1	40	4	35	1	33	32	433
循環器科	111		8	1	7	2	10		11	1	14	2	7		6	1	9	1	8		8	1	3	1	10	10	101
小児科	7												2		1								3		1		7
歯科口腔外科	197	1	14	1	19	2	17		14	1	13		1	19		16		13		15		17		16		6	191
総計	3938	45	264	57	277	45	274	43	292	54	314	53	245	48	309	58	290	51	262	38	290	35	259	33	302	560	3378

【麻酔区分別件数】

診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
		全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外
内科	95		8		10		6		2	1	6		5		8		7		9		11		10		12	1	94
外科	850	43	23	50	22	52	19	57	19	62	10	46	20	60	26	50	19	54	12	49	23	43	18	47	26	613	237
整形外科	523	13	29	21	25	14	28	14	31	17	33	14	29	14	28	22	20	12	30	11	35	10	30	10	33	172	351
脳神経外科	194	6	11	12	8	10	9	6	5	9	13	7	7	6	7	6	7	7	11	9	7	9	6	8	8	95	99
産婦人科	533	27	20	21	25	29	13	25	16	30	27	17	24	25	19	28	21	32	13	19	15	26	17	30	14	309	224
眼科	285		24	2	22		24		29	1	24	2	19	1	29		27	2	15	1	25	1	11	1	25	11	274
耳鼻咽喉科	256	18	3	18	1	19	1	26	1	26	1	16	1	21	2	26	1	18	1	15	1	16	1	23		242	14
形成外科	422	4	23	6	18	12	20	12	34	13	28	7	23	7	28	7	37	10	21	8	35	9	24	8	28	103	319
泌尿器科	465	9	25	6	39	8	24	9	24	4	32	5	28	6	44	11	33	9	35	3	38	6	33	6	28	82	383
循環器科	111	2	6	4	4	6	6	6	5	8	7	3	6	3	3	5	5	2	7	3	5	3	1	7	4	52	59
小児科	7												2		1								3		1		7
歯科口腔外科	197	13	2	20		17	2	14		13	1	16	2	20		15	1	12	1	13	2	16	1	15	1	184	13
総計	3938	135	174	160	174	167	152	169	166	186	182	134	164	163	194	170	178	158	155	131	197	142	152	156	179	1871	2067

【手術室稼働件数・年別推移】

診療科	申込区分別						麻酔区分別						合計		
	定期			緊急			全麻			全麻以外			28年度	29年度	30年度
	28年度	29年度	30年度	28年度	29年度	30年度	28年度	29年度	30年度	28年度	29年度	30年度			
内科	81	100	91	8		4			1	89	100	94	89	100	95
外科	574	663	671	170	141	179	525	548	613	219	256	237	744	804	850
整形外科	504	495	456	91	52	67	222	148	172	373	399	351	595	547	523
脳神経外科	67	93	110	75	88	84	72	97	95	70	84	99	142	181	194
産婦人科	446	489	415	118	106	118	296	343	309	268	252	224	564	595	533
眼科	258	281	280	2	2	5	8	7	11	252	276	274	260	283	285
耳鼻咽喉科	279	258	238	11	22	18	250	262	242	40	18	14	290	280	256
形成外科	524	469	385	38	37	37	63	110	103	499	396	319	562	506	422
泌尿器科	273	379	433	30	18	32	47	77	82	256	320	383	303	397	465
循環器科	113	133	101	15	20	10	68	65	52	60	88	59	128	153	111
小児科	126	1	7	1			103	1	7	24			127	1	7
歯科口腔外科		158	191		5	6		142	184		21	13		163	197
総計	3245	3519	3378	559	491	560	1654	1800	1871	2150	2210	2067	3804	4010	3938



■薬剤委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	西村 礼司 (形成外科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	佐伯 千里 (消化器内科)	委員	井上 恒佳 (麻酔科)
委員	河野 優 (神経内科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	松岡 諒 (小児科)	委員	木ノ内 勝士 (心臓血管外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	遠藤 泰彦 (病理科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	道本 顕吉 (放射線科)
委員	勝又 千尋子 (副看護部長)	委員	玉舟 正弥 (病院経営課)
委員	寺田 和子 (医事課)	事務局	薬剤科

2 開催回数

定期開催 3 回：7 月、10 月、3 月 臨時開催 1 回：4 月

3 平成 30 年度の取組実績

新規採用薬品、院外処方許可薬品、後発薬品、削除薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

- ①新規採用品目 : 56 製剤、69 品目
- ②院外処方許可薬 : 35 製剤、37 品目
- ③後発薬品 : 71 製剤、95 品目
- ④削除薬品 : 39 製剤、39 品目
- ⑤後発薬品置換え率 : 85.9%

※平成 30 年 12 月に後発医薬品使用体制加算 2 (40 点：後発医薬品置換え率 80%以上 85%未満かつカットオフ値 50%以上)の施設基準を取得した。

さらに、平成 31 年 3 月には後発医薬品使用体制加算 1 (45 点：後発医薬品置換え率 85%以上かつカットオフ値 50%以上)の施設基準を取得することができた。

4 来年度の課題

- ・採用薬品の選定：より良い医療が提供できる適切な医薬品の採用に努める。また、適正在庫に努め、削除品目の選定を行う。
- ・後発医薬品使用体制加算：施設基準である「カットオフ値」50%以上、後発医薬品置換え率 85%以上を維持する。

(文責 河野 優)

■医療ガス安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁(副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	大沼 幹雄(事務部長)
委員	伊藤 すみ子(副院長兼看護部長)	委員	井上 恒佳(麻酔科)
委員	石川 隆之(臨床検査科)	委員	井出 宣孝(診療技術部長)
委員	加藤 寛史(薬剤科)	委員	西田 英明(臨床工学科)
委員	渡辺 利英(病院総務課)	事務局	中川 貴裕(病院総務課)
事務局	岩間 雄一郎(病院総務課)		

2 開催回数

1回：平成30年11月9日(金)

3 平成30年度の取組実績

医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とし、以下の内容を実施した。

1) 医療用ガス点検結果の報告

【目的】院内各所に設置している医療ガスアウトレット・院内に医療ガスを供給するマニホールドの点検結果を共有し、医療ガス漏洩を防ぐために修繕の必要な箇所を把握することを目的とする。

【内容】1 点検報告結果の説明

2 平成30年度医療ガス設備の修繕・新設の検討

平成30年度は中央放射線科6室に医療ガスアウトレットを新設。

医療ガス空気吸引制御盤の取替

2) 「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日時	対象	参加人数	研修内容
H30. 4. 26	新規採用看護師	30名	酸素ボンベの取扱い他(実習・ビデオ)

4 来年度の課題

1) 医療ガスに関する環境整備(法令遵守)の徹底を行い事故防止に努める

2) 配管端末器、ホースアセンブリの日常点検の慣習化

3) 巡回点検により医療ガスの認識度を高める

4) 安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

(文責 諸岡 暁)

■臨床研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	柏木 秀幸 (院長)	委員	梶本 徹也 (外科部長)
委員	後藤 博一 (泌尿器科部長)	委員	秋山 直枝 (小児科副部長)
委員	井上 恒佳 (麻酔科部長)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科部長)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科部長)	委員	大沼 幹雄 (事務部長)
委員 (外部)	伊藤 正仁 (富士保健所)	委員 (外部)	高木 啓 (鷹岡病院)
委員 (外部)	上田 正山 (上田クリニック)	委員 (外部)	中西 史憲 (中西眼科クリニック)
委員 (外部)	川村 統勇 (川村病院)	委員 (外部)	小松 勝利 (小松クリニック)
委員 (外部)	北西 史直 (北西医院)	委員 (外部)	渡邊 英一郎 (富士整形外科病院)
事務局	鈴木 裕子 (病院総務課)		

2 開催状況

第1回臨床研修管理委員会 (平成31年3月18日)

議題 (1) 平成30年度事業報告及び平成31年度事業計画 (案) について

(2) 研修医の初期臨床研修修了認定について

(3) 平成30年度・31年度の初期臨床研修医について

(4) 臨床研修案内及びプログラム (案) について

3 平成30年度の取組実績

(1) 研修医採用

医師：4名、歯科医師：1名 (日本歯科大学協力病院として)

(2) マッチング

申込者：7名、マッチ：5名

(3) 合同説明会参加

①メックマッチングフェア2018

平成30年4月21日 (日) ベルサール新宿グラント

②eレジフェア

平成30年5月27日 (日) 東京ドームシティプリズムホール

③レジナビフェア2018 in 東京

平成30年7月15日 (日) 東京ビッグサイト

④静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 静岡

平成31年3月21日 (祝) グランシップ

⑤聖マリアンナ医科大学訪問

平成30年12月10日 (月)

- (4) 医学生病院見学 延べ 43 名 (東京医科歯科大学、香川大学、弘前大学 他)
- (5) 東京慈恵会医科大学実習生 (クリニカルクラークシップ) 受入れ
消化器内科 6 名、循環器内科 4 名、外科 5 名、小児科 9 名
- (6) 聖マリアンナ医科大学実習生受入れ
腎臓内科 1 名
- (7) 浜松医科大学実習生受入れ
産婦人科 5 名
- (8) 医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生 1 日職場体験実施
平成 30 年 8 月 8 日 (水) 23 名 (医師志望 8 名、薬剤師志望 15 名)
- (9) ブラック・ジャックセミナー協力 (市内中学生手術模擬体験)
平成 30 年 8 月 18 日 (土)
- (10) 初期臨床研修医基本的臨床能力評価試験実施
平成 31 年 1 月 21 日 (月)
- (11) 合同研修会等参加
 - ①静岡県主催初期臨床研修合同研修会
平成 30 年 6 月 9 日 (土)
縫合、超音波診断の基礎 (腹部、胸部)
 - ②静岡県主催初期臨床研修合同研修会
平成 30 年 10 月 27 日 (土)
気道管理の基礎、中心静脈穿刺の基礎、腰椎穿刺の基礎
 - ③院内 ICLS 講習会
平成 30 年 10 月 28 日 (日)
 - ④災害対策訓練
平成 30 年 11 月 17 日 (土)
 - ⑤第 162 回静岡県外傷セミナーIn 富士
平成 30 年 12 月 8 日 (土)
 - ⑥ふじのくに地域医療支援センター主催研修会
平成 31 年 2 月 23 日 (土)
 - ⑦院内 ICLS 講習会ワークショップ
平成 31 年 3 月 10 日 (日)
 - ⑧その他
 - ・臨床研修医スキルアップ研修 (月 1 回)
 - ・医療安全研修、感染対策研修、院内 C P C 等

4 来年度の課題

引き続き、臨床研修の充実を図っていく。

(文責 笠井 健司)

■院内感染対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	後藤 博一（感染対策室長兼泌尿器科部長）
委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）
委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	井出 宣孝（薬剤科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	大石 悦子（副看護部長）	委員	大沼 幹雄（事務部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
委員	森 育洋（医事課）	委員	北島 美鈴（専従リスクマネージャー）
委員	本間 功武（感染対策専従看護師）	事務局	小松崎 亜也（感染対策室）

H I V部会スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	部員	6名

2 開催回数

12回（毎月1回、第1金曜日医療安全管理委員会と同時開催）

3 平成30年度の実績

病院感染低減のため感染防止活動の指示及び統括を行った。ICTからの検討事項の承認やインフルエンザ対策としての面会制限など病院感染防止を指示した。

また、ICTからの報告を受け具体的な感染対策を審議し決定した。

4 来年度の課題

感染対策に関する最新知見やエビデンスを考慮した病院感染防止活動を推進し、安全な医療を提供し地域に信頼される病院となる。また、地域と連携し富士医療圏の感染対策強化に努める。

（文責 柏木 秀幸）

■倫理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	後藤 博一 (総括部長兼泌尿器科部長)
委員	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	委員	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	大沼 幹雄 (事務部長)	委員	森 育洋 (医事課)
外部委員	安倍 徹 (前静岡県教育長)	外部委員	石山 むづ美 (常葉大学保育学部教授)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)		

2 開催回数

19回 (定例審査：4件、迅速審査20件)

3 平成30年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成7年5月10日に設置された。

委員会を19回開催、24案件を審議した結果、委員会の意見等を付して21案件を承認した。

また、治験施設支援機関との業務提携に伴い当院治験審査委員会が解散したことから、治験受託審査に関する当委員会の関わりについて検討し、必要な規程等の改正を行った。

申請内容	申請	承認	承認しない	取下げ	審議保留
論文化、学会雑誌への投稿	7	7	—	—	—
保険適用外の検査、診療、薬剤使用	8	8	—	—	—
他施設で行われる治験への参加	0	0	—	—	—
当院としての対応方針の検討	2	1	—	1	—
大学・財団等で行われる医学的研究への参加	7	5	1	—	1

4 来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

(文責 後藤 博一)

■訪問看護・退院調整委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	勝又 千壽子（副看護部長）	副委員長兼事務局	中村 三千代（地域医療連携室）
委員	高野 裕樹（外科）	委員	辻野 大助（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	佐藤 実香（薬剤科）	委員	田中 圭子（6 A病棟）
委員	新名 美佐子（7 A病棟）	委員	河合 利枝（5 B病棟）
委員	赤堀 崇代（地域医療連携室）	委員	大原 知子（外来）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	前嶋 真理子（地域医療連携室）
委員	佐山 侑希（病院総務課）		

2 開催回数

3回（6月、11月、3月 第3水曜日）

3 平成30年度の取組実績

(1) 訪問看護実施患者の紹介と経過報告及び訪問看護終了患者報告

訪問看護実施中の患者について訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際を他のスタッフと検討した。さらに、訪問看護終了患者の事例を検討し、看護の実際について情報を共有した。

(2) 新規訪問看護患者の紹介と承認

病棟より依頼を受けた患者さんについて、当院での訪問看護を実施するための承認を受けた。新規承認患者数：39名

(3) 退院調整患者報告

退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。

(4) 訪問看護・退院調整業務の運営について、問題点を抽出し改善点について検討した。

(5) 在宅終末期ケアが必要な患者・家族への支援について事例検討会を行った。

(6) 委員会の名称を、「訪問看護退院調整委員会」から「訪問看護退院支援委員会」へ変更することの検討を行った。（来年度への課題）

4 来年度の課題

2019年度の病院指針「確かな技術で 高度な医療 地域で進める医療連携」のもと、看護部の訪問看護退院調整担当委員会と連携し、さらに専門的ケアが必要な患者に対しては認定看護師と同行訪問し、患者・家族の満足度が向上する活動を実施していく。また、地域連携において多職種が、各々の専門性を発揮できる体制を構築していく。

（文責 勝又 千壽子）

■栄養管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	井出 宣孝 (薬剤科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科)	委員	市原 恒平 (外科)
委員	勝又 千壽子 (看護部長室)	委員	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	松山 早登美 (5 B病棟)	委員	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	植松 和子 (7 B病棟)	委員	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	森 育洋 (医事課)
事務局	小俣 朋子 (栄養科)	事務局	古郡 朝子 (栄養科)
事務局	大山 実希 (栄養科)	事務局	菊地 実奈子 (栄養科)

2 開催回数

12回：毎月定例会報告（4月～3月）及び5月・8月・11月・2月に実施

3 平成30年度の取組実績

- ①委員会のメンバーで昼食を検食し献立の確認を行った。
- ②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。(年間4回実施)
- ③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し合わせて破損状況も確認、紛失・破損に対しては追加購入を行い、委託側で補充対応した。
- ④異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデントについての報告を行い、委員会内でその後の対応・改善策を報告、また誤配膳防止対策としては禁止食品があるコメント対応の患者に対しては、トレーの色分け（ピンク色）や専用食器を導入し、最終の目視チェックを強化し誤配膳の発生の防止に努めた。
- ⑤院内約束食事箋の見直しを行い、新しい食種の考案やコメント項目の見直しなども検討し作成し活用できている。
- ⑥経営改革推進委員会より事業計画書の中に掲げてある経営基盤の強化項目として、栄養指導件数の増加を収入の確保として、栄養指導枠の増設を行い、担当医へ栄養指導依頼を周知、指導件数の増加を狙った。

4 来年度の課題

今後も検食、嗜好調査を通して病院食のさらなる改善をはかっていく。

また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数を減少するように努めていく。
(文責 鈴木 俊雅)

■中央放射線科運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	道本 顕吉 (放射線科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
副委員長	高木 省一 (中央放射線科)	委員	木ノ内 勝士 (心臓血管外科)
委員	三橋 真 (整形外科)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	廣津 竜也 (脳神経外科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	清水 則雄 (中央放射線科)
委員	遠藤 佳秀 (中央放射線科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	野澤 里美 (外来A)	委員	田島 眞弓 (外来C)
委員	望月 敦子 (外来C)	委員	岩崎 佐知子 (臨床検査科)
委員	杉山 弘一 (臨床工学科)	事務局	遠藤 一弘 (中央放射線科)

2 開催回数 4回

3 平成30年度の取組実績

- ・病診連携高度医療機器の利用実績は、28年度と比べ50人程度の増加となった。
- ・手術室管理区域の抹消について、移動型透視装置購入に伴い、アルコスコープを撤去し廃止届けを保健所に提出した。
- ・令和元年度の医療機器等の予算申請、購入希望については、優先順位1位に「6室RADspeedPro」、次いで「アイソトープDiscoveryNM/CT850」、「超音波装置Aplio a550」等を要望した。
- ・結石破碎装置及び12室の運用について。結石破碎装置は、更新が決定となり年内の稼動を予定している。12室については、RFA、穿刺等の実施を検討している。なお今後のDIP検査は、結石破碎装置を用いて実施する。
- ・血管カテーテル検査において、タイムアウトを実施したい。なおカテーテル検査は、検査、治療を含む。循環器、脳外科、放射線科等において実施する。
- ・血管撮影室にて、転倒転落が発生した。その対策を策定したので、各所属にお願いしたい。

4 来年度の課題

- ・上半期の業務実績について、初診料の改定等により、全体的に外来件数が減少している。また、地域連携においても件数が減少している。今後件数が増加するよう努力していきたい。
- ・アブレーション検査曜日の変更について、4月より水曜日午後17室にて行いたい。また、21室と並列に実施する事を希望する。

(文責 道本 顕吉)

■臨床検査連絡委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	遠藤 泰彦 (病理診断科)
副委員長	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	三川 秀文 (循環器内科)
委員	三橋 真 (整形外科)	委員	角皆 季樹 (小児科)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	市原 恒平 (外科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	藤田 周佑 (脳神経外科)	委員	植松 和子 (7 B病棟)
委員	大井 洋子 (4 A病棟)	委員	佐山 侑希 (病院総務課)
委員	杉山 彩 (医事課)	委員	鈴木 雅人 (臨床検査科)
委員	渡邊 修 (臨床検査科)	委員	渡邊 由喜子 (臨床検査科)
委員	鈴木 英昭 (臨床検査科)		

2 開催回数

4回 (6月、9月、12月、3月 第3水曜日)

3 平成30年度の取組実績

- ・検査データの質的向上に取組み、臨床検査技師会精度保証施設の認定を更新した。
- ・日本臨床検査技師会、静岡県医師会精度管理調査結果はA評価となり、適正な精度管理のもとに臨床検査が実施されていることを報告した。
- ・厚生労働省関係省令の臨床検査室に関する医療法が改正され、新たに作成した標準作業書、業務日誌、検査台帳等の整備状況について報告した。
- ・各診療科、病棟、手術室、病理検査室におけるホルマリンの保管、記録、管理の適正化を図るため、毒物劇物取締法、労働安全衛生法に則って整備に取り組んだ。
- ・剖検数の状況を報告し、病理解剖に関する受付、対応、連絡方法等を周知した。
- ・富士市立中央病院CPCを2回、病理解剖報告会を4回開催した。

4 来年度の課題

- ・検査に係わる要望、意見、問題を取り上げ、臨床や他部門との連携を密にしながら課題には速やかに対応する。
- ・信頼される検査データの提供に向け、システム整備と精度管理を更に向上させる。
- ・新たな検査技術、知識の習得に努め、院内学術活動の推進に協力する。

(文責 笠井 健司)

■救急室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
副委員長	坪井 一人 (外科) ~12月	副委員長	鈴木 俊雅 (外科) 1月~
副委員長	野澤 里美 (外来A)	委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)
委員	土井 貴之 (産婦人科) ~12月	委員	小田 彩子 (産婦人科) 1月~
委員	下村 達也 (泌尿器科)	委員	村上 宏史 (整形外科) ~6月
委員	原田 直毅 (整形外科) 7月~	委員	角皆 季樹 (小児科)
委員	渡邊 広明 (臨床検査科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	望月 保子 (薬剤科)	委員	勝間田 賢 (臨床工学科)
委員	田島 眞弓 (外来C)	委員	若本 奈緒美 (外来C)
委員	大原 知子 (外来C)	委員	加藤 千代美 (地域医療連携センター)
事務局	加藤 菜緒 (病院総務課) ~1月	事務局	秋山 英希 (病院総務課) 2月~

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2木曜日)

3 平成30年度の取組実績

平成30年度1年間の救急外来受診者数は9,351名であり、当院に入院となった患者総数は4,179名 (入院率44.7%)。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は7,012名で、当院に入院となった患者総数は、2,951名 (入院率42.1%)であった。

救急車による搬入は総数で3,717名であった。そのうち、入院した患者数は2,194名 (入院率59.0%)であり、休日・祝日・夜間の救急車で搬入患者数は2,557名であった。そのうち、入院した患者数は1,459名 (入院率57.1%)であった。休日・祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は1,399名で、そのうち、入院となった患者総数は689名 (入院率49.2%)であった。診療所・開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は1,142名で、当院に入院となった患者総数は717名 (入院率62.8%)であった。

4 来年度の課題

冬季のインフルエンザ流行期などは満床状態となり、救急搬送要請に十分対応できず、市外への搬送を余儀なくされる事案が生じることがある。このような状況を改善していくために、引き続き問題解決に向けた検討を行い、医師会をはじめとする関係機関との連携強化に努める。また、富士市消防本部 (警防課) とは定期的に救急搬送に関する事例検討を行い、共通認識のもと任務を遂行する。

(文責 藤井 常宏)

■内視鏡室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	佐伯 千里 (消化器内科)	副委員長	野澤 里美 (外来A)
委員	金井 友哉 (消化器内科)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	鍋島 雄和 (中央放射線科)
委員	植松 和子 (7B病棟)	委員	仁藤 伸代 (外来C)
委員	田島 眞弓 (外来C)	委員	白戸 幸子 (外来D)
事務局	内視鏡室		

2 開催回数

6回 (毎月1回、第3木曜日)

3 平成30年度の取組実績

- ・内視鏡洗浄機が劣化し業務に支障をきたすようになった。型式が古く、修理はできないことが判った。そのため新規購入とリース運用で比較検討を行い、令和元年度にリース運用により最新式の洗浄機を導入予定。
- ・汎用通常スコープとして、上部消化管内視鏡 (GIF-H290) を2本購入した。また、気管支鏡も BF-Q290 シリーズを新たに購入した。
- ・内視鏡室の安全管理について、本委員会で各職種の立場から意見を出し検討を行い、改善に努めた。

4 来年度の課題

- ・内視鏡件数・治療件数も増加傾向にある、安全で効率の良い運用に努める。
- ・検査数の増加に伴い、時間外業務短縮のため、3室の運営を検討していく。
- ・胆道検査 (ERCP や EUS) が特に増加傾向であり、内視鏡デバイスの導入や見直しを適宜行っていく。

(文責 金井 友哉)

■褥瘡対策委員会

1 スタッフ

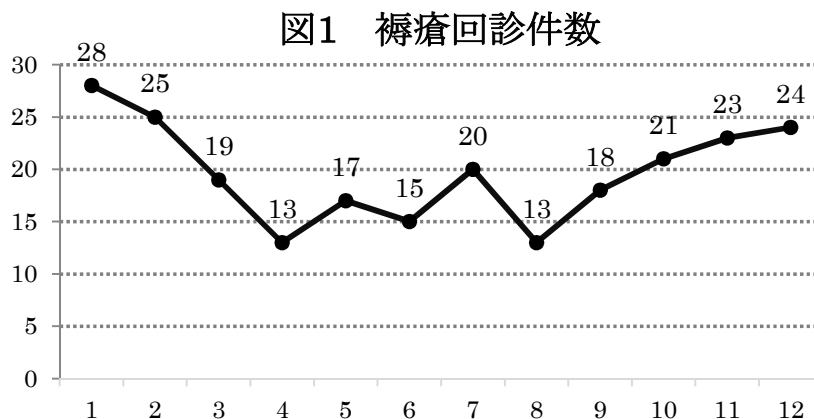
役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	津嶋 友央 (皮膚科)	副委員長	植松 和子 (7 B病棟)
委員	西村 礼司 (形成外科)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	野澤 治 (ICU)	委員	芦川 牧子 (手術室)
委員	諸星 美恵子 (3 C病棟)	委員	佐野 幸代 (5 B病棟)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員	古郡 朝子 (栄養科)
委員	大山 実希 (栄養科)	委員	菊地 実奈子 (栄養科)
委員	松田 佑平 (薬剤科)	委員	大原 弘樹 (リハビリテーション科)
委員	渡邊 亜希子 (リハビリテーション科)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

2 開催回数

8回 (毎月1回、第4火曜日 8月・10月・12月・2月を除く)

3 平成30年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に1回行っており、月ごとの回診件数を図1に示す。平均は19件/月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図2に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図3に示す。平成30年度の年間平均値は、0.78%であり全国平均の1.60%より低い。



褥瘡ハイリスク患者ケア加算 (1入院につき1回算定: 500点) は平成30年度で2,016件 (月平均168件) 算定した。

図2 褥瘡件数

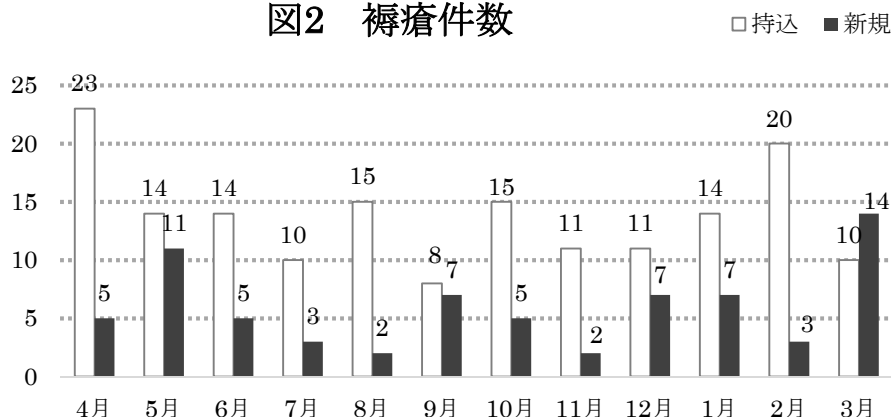
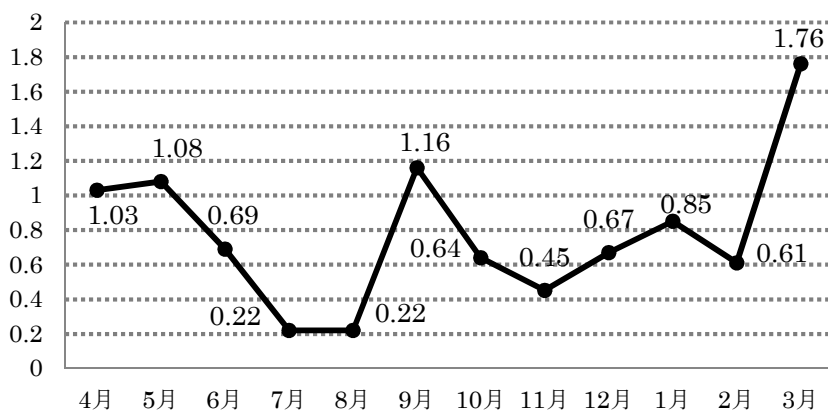


図3 褥瘡推定発生率 (%)



(※) 褥瘡推定発生率

$$\frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数} \times 100}$$

平成 30 年度の体圧分散寝具の稼働率は 98.3%であった。

平成 30 年 10 月 18 日に、スリーエムジャパン株式会社による勉強会を開催した。

『スキントラブルの発生メカニズムと対応方法』をテーマとし、144 名の職員が参加した。

4 来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していきたい。また、体圧分散用具やクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図ってきたい。

(文責 津嶋 友央)

■クリニカルパス委員会

1 スタッフ

【委員会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (外科)	副委員長	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	金井 友哉 (消化器内科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	山田 崇之 (循環器内科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	齋藤 洋実 (3 C病棟)
委員	小坂 裕介 (薬剤科)	委員	島田 英介 (医事課)
委員	佐野 元美 (医事課)	事務局	高田 恭平 (医事課)
事務局	川本 悦子 (医事課)		

【クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	副部会長	齋藤 洋実 (3 C病棟)
副部会長	小林 拓巨 (7 B病棟)	部員	他 24 名

【化学療法クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	副部会長	遠藤 里花 (6 A病棟)
部会員	他 12 名		

【地域連携クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久 (外科)	部会員	他 8 名

2 開催回数

【委員会】 12 回 (毎月 1 回、第 1 金曜日)

【クリニカルパス部会】 12 回 (毎月 1 回、第 2 火曜日)

【化学療法クリニカルパス部会】 1 回 (原則第 4 金曜日)

【地域連携クリニカルパス部会】 1 回 (3 月 15 日)

3 平成 30 年度の取組実績

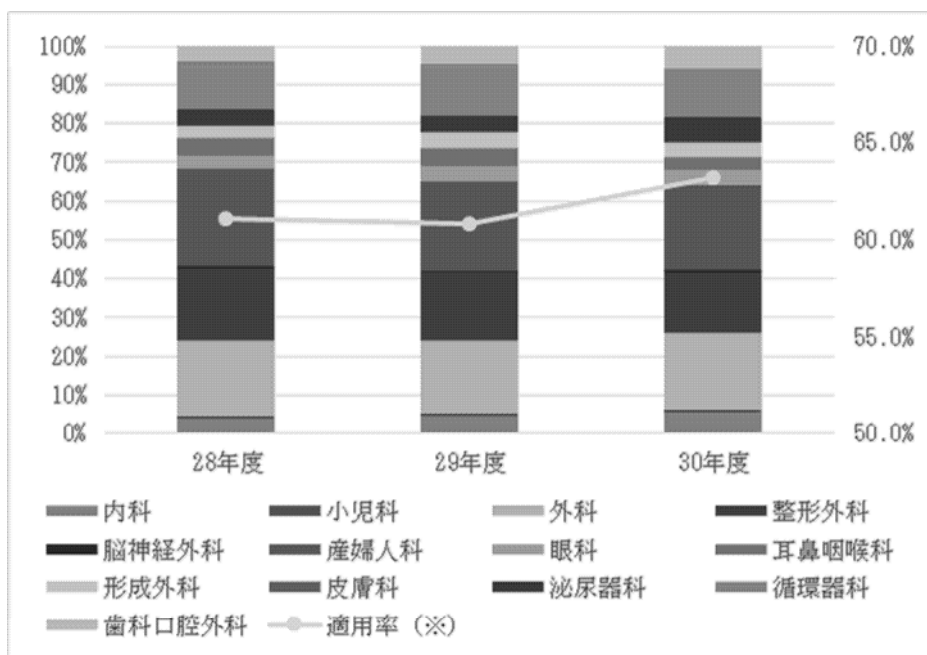
5 月 15 日、11 月 13 日、2 月 12 日の 3 回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、それぞれ「クリニカルパスの基本」「消化器内科におけるクリニカルパス」「バリエーション分析」をテーマに発表を行った。

平成 30 年度に適応したクリニカルパスは 7,631 件であり、28 年度から 3 年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。

クリニカルパス適用件数

	28年度	29年度	30年度	平均適用
内科	293	343	409	348
小児科	45	34	49	43
外科	1464	1423	1521	1469
整形外科	1414	1299	1198	1304
脳神経外科	35	24	43	34
産婦人科	1916	1729	1672	1772
眼科	254	293	285	277
耳鼻咽喉科	350	342	263	318
形成外科	223	300	273	265
皮膚科	14	16	41	24
泌尿器科	294	311	456	354
循環器科	956	1006	981	981
歯科口腔外科	296	341	440	359
総計	7554	7461	7631	7549
適用率(※)	61.1%	60.8%	63.2%	61.7%

※ クリニカルパス適用率＝クリニカルパス適応件数÷電子カルテ上入院件数×100



4 来年度の課題

- ・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる。
- ・アウトカムを Basic Outcome Master に置き換える。
- ・地域がん診療病院、地域医療支援病院として、地域連携パスの体制整備について更なる協議を行う。
- ・パス作成に関して、部会員向けの勉強会の場を設ける。 (文責 良元 和久)

■病院機能改善委員会

1 スタッフ

(1) 全体会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	勝又 千壽子 (副看護部長)	副委員長	石川 隆之 (臨床検査科技師長)
委員	阪本 宏志 (ICU, 循環器内科)	委員★	良元 和久 (手術室, 5 B, 外科)
委員★	後藤 博一 (3 B, 泌尿器科)	委員	土井 貴之 (4 A, 産婦人科)
委員	松岡 諒 (4 B, 小児科)	委員	重田 泰史 (5 A, 耳鼻咽喉科)
委員	辻野 大助 (6 A, 糖尿病・内分泌・血液内科)	委員★	高橋 康人 (6 B, 腎臓内科)
委員	富永 光敏 (7 A, 循環器内科)	委員	金井 友哉 (7 B, 消化器内科)
委員	加藤 努 (3 C, 整形外科)	委員★	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長, 腎臓内科)	委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委員	佐伯 千里 (消化器内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	田口 真吾 (心臓血管外科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	梶本 徹也 (外科)	委員	西村 礼司 (形成外科)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	道本 顕吉 (放射線科)
委員	井上 恒佳 (麻酔科)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員★	望月 保子 (薬剤科)
委員★	西田 英明 (臨床工学科)	委員★	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員★	小俣 朋子 (栄養科)	委員★	中村 公美 (リハビリテーション科)
委員	齋藤 幸子 (集中治療室)	委員	森本 康江 (手術室)
委員	小野田 智恵子 (3 B病棟)	委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)
委員	齋藤 正美 (4 B病棟)	委員	秋山 ゆかり (5 A病棟)
委員	松山 早登美 (5 B病棟)	委員	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	小林 由美 (6 B病棟)	委員	勝山 弘子 (7 A病棟)
委員	植松 和子 (7 B病棟)	委員	柘植 範子 (3 C病棟)
委員★	野澤 里美 (外来A)	委員	田島 真弓 (救急外来)
委員★	渡邊 かおる (外来A)	委員★	滝澤 佐織 (4 B病棟)
委員★	持田 和美 (5 A病棟)	委員★	前嶋 良子 (6 B病棟)
委員★	勝亦 由美 (7 B病棟)	委員★	菅原 早苗 (4 A病棟)
委員★	佐野 陽子 (集中治療室)	委員★	玉舟 正弥 (病院経営課)
委員★	伴野 晃仁 (病院総務課)	委員★	中川 貴裕 (病院総務課)
委員★	寺田 和子 (医事課)	委員★	島田 英介 (医事課)
委員	中村 三千代 (地域医療連携室)	委員	大塚 君子 (患者サポート室)

委員★	北島 美鈴 (医療安全対策室)	委員★	本間 功武 (感染対策室)
事務局	木内 啓人 (病院経営課)		

(2) 定例会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	勝又 千壽子 (副看護部長)	副委員長	石川 隆之 (臨床検査科技師長)
委員	24名 (★は定例会委員を兼務)		

2 開催回数

- (1) 全体会：2回 (4月、8月)
- (2) 定例会：10回 (月1回 (全体会開催月を除く)、第3火曜日)

3 平成30年度の実績

- (1) 病院機能評価受審に向けた取組、受審後の課題確認及び改善活動
- (2) 待ち時間集計報告 (毎月)
- (3) 患者さんアンケート調査の実施 (10月16日～19日)
- (4) 職員満足度調査の実施 (11月16日～12月21日)
- (5) チーム医療評価の実績報告、次期5か年計画の作成
- (6) 待ち時間対策 (内科外来待合へのテレビ設置、基本スケジュールの裏面活用)
- (7) 部署別年度目標の管理

4 来年度の課題

病院機能評価受審により指摘された課題について改善活動を進め、委員会で進捗管理を行う。

(文責 伊藤 すみ子)

■NST委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	齋藤 幸子 (ICU)
委員	辻野 大助 (内科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	市原 恒平 (外科)	委員	松岡 諒 (小児科)
委員	廣津 竜也 (脳神経外科)	委員	長橋 あゆみ (医療技術科)
委員	佐野 弘美 (リハビリテーション科)	委員	梅原 健人 (リハビリテーション科)
委員	佐野 僚子 (臨床検査科)	委員	三澤 延司 (薬剤科)
委員	木元 慎一郎 (薬剤科)	委員	阿部 一仁 (薬剤科)
委員	小俣 朋子 (栄養科)	委員	古郡 朝子 (栄養科)
委員	大山 実希 (栄養科)	委員	菊地 実奈子 (栄養科)
委員	諸星 宮子 (3B病棟)	委員	大井 洋子 (4A病棟)
委員	芳野 由規子 (7A病棟)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	井出 悦子 (5A病棟)	委員	長島 恵 (外来C)
ワグナーバー	西村 礼司 (形成外科)	事務局	川本 悦子 (医事課)
事務局	川口 愛美 (医事課)		

2 開催回数

11回 (毎月1回、第3木曜日。8月は除く)

3 平成30年度の取組実績

①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム (褥瘡対策委員会) の3チームが日々活動しており、月に1度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

〔栄養評価・病院食改善チーム〕

・毎週火曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

平成30年度 NST 回診 延べ426人 月平均35.5人

〔摂食嚥下口腔ケアチーム〕

・毎月第2木曜日、第4水曜日に回診を行っている。月に1度勉強会を行っている。

平成30年度回診 延べ25人 月平均2.1人

〔褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）〕

※褥瘡対策委員会のページで報告

②全職員対象のNST勉強会の開催

開催日	内 容	講 師	参加者
H30. 6. 6	栄養評価の方法について	小児科 松岡 諒医師	81名
H30. 7. 4	N S T活動報告 院外研修に関して	栄養科 大山 実希 管理栄養士 3 B病棟 諸星 宮子 看護師 栄養科 古郡 朝子 管理栄養士 リハビリテーション科 梅原 健人 理学療法士	55名
H30. 9. 5	経腸栄養リスクマネジメント	アボットジャパン株式会社	47名
H30. 10. 3	がん患者の栄養管理	外科 坪井 一人医師	70名
H30. 11. 7	慢性腎不全の栄養管理について	内科 土谷 千子医師	57名
H31. 2. 21	感染症と栄養 ～乳酸菌のトピックス～	ニュートリー株式会社	57名

③研修会への参加

平成 31 年 2 月 14 日(木)・15 日(金)に開催された日本静脈経腸栄養学会学術集会において、梅原理学療養士が「運動時の栄養負荷により効果的な A D L 改善を認めた M D S 患者の一例」についてポスター形式で演題発表を行った。

また、平成 30 年 10 月 2 日(火)～平成 30 年 12 月 18 日(火)の期間に、NST 教育認定施設である静岡市立清水病院で 3 名が 12 日間(計 44 時間)の研修を受け、栄養サポートチーム加算に係る研修を修了した。

更に平成 31 年 2 月 13 日(水)付で NST 専門療法士の試験に 1 名が合格し資格を取得、1 名が資格の更新を行った。

4 来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続き NST 勉強会の開催を行っていききたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、栄養サポートチーム加算に係る研修の修了者や、NST 専門療法士資格取得者を増員していききたい。

(文責 鈴木 俊雄)

■輸血療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏(糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長(※)	長峰 誠一郎(臨床検査科)
委員	木ノ内 勝士(心臓血管外科)	委員	佐伯 千里(消化器内科)
委員	大谷 法理(麻酔科)	委員	高野 裕樹(外科)
委員	原田 直毅(整形外科)	委員	鈴木 英訓(泌尿器科)
委員	矢田 大輔(産婦人科)	委員	廣津 竜也(脳神経外科)
委員	遠藤 里花(6 A病棟)	委員	東川 真理(5 B病棟)
委員	遠藤 大介(薬剤科)	委員	齋藤 智恵美(医事課)
委員	大野 真一(臨床検査科)	外部委員	浅田 哲哉(日本赤十字社)

(※)事務局 長峰 誠一郎(臨床検査科)

2 開催回数

6回(隔月、第3火曜日)

3 平成30年度の取組実績

- 輸血管理料 I、適正使用加算を維持した。
- 血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告した。
- 血液製剤の使用記録を抽出し検討した。
- 輸血業務手順書を改訂した。
- 輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法を検討した。
- 新人看護師研修にて講義を行った。
- 輸血後感染症検査実施率の推移を集計、報告した。
- 内科処置室の患者認証業務を改善した。

血液製剤使用量の推移

種別	単位	H28年度	H29年度	H30年度	平成30年度
赤血球製剤(M)	単位	6189	6899	6064	F/M比=0.28*
凍結血漿(F)	単位	2090	2180	2000	A/M比=1.17*
血小板製剤	単位	7710	11000	10910	
アルブミン(A)	単位	9487	8400	8081	

※輸血管理料 I 適正使用加算の条件はF/M:0.54未満、A/M:2.0未満であること。

4 来年度の課題

- ①血液製剤の適正使用を推進する。
- ②医師へ正しい業務手順を周知する。
- ③輸血管理料 I、適正使用加算を維持する。

(文責 藤井 常宏)

■医療安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (医療安全管理統括責任者)	副委員長	北島 美鈴 (専従リスクマネジャー)
委員	良元 和久 (手術室運営委員長)	委員	藤井 常宏 (救急室運営委員長)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	秋山 ゆかり (リスク担当看護長)
委員	井出 宣孝 (診療技術部長兼薬剤科長)	委員	加藤 實史 (医薬品安全管理責任者)
委員	高木 省一 (中央放射線科技師長)	委員	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)
委員	石川 隆之 (臨床検査科技師長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課長)
委員	森 育洋 (医事課長)	事務局	医療安全対策室

リスクマネジメント部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	北島 美鈴 (専従リスクマネジャー)	副部会長	遠藤 泰彦 (病理診断科部長)
部員	11名		

医薬品部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	加藤 實史 (医薬品安全管理責任者)	部員	7名

医療機器部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	西田 英明 (医療機器安全管理責任者)	副部会長	池谷 幸一 (中央放射線科主任)
部員	8名		

2 開催回数

- (1) 医療安全管理委員会 12回 (毎月1回、最終金曜日)
- (2) リスクマネジメント部会 12回 (毎月1回、第3木曜日)
 - ・薬剤・製剤グループ 12回 (毎月1回、第2水曜日)
 - ・転倒転落グループ 12回 (毎月1回、第2火曜日)
 - ・5Sグループ 12回 (毎月1回、第1水曜日)
- (3) 医薬品部会 1回
- (4) 医療機器部会 5回

3 平成30年度の取組実績

- (1) 心肺蘇生講習会開催
256名に実施した

(2) リスクマネジメント部会

- ・薬剤・製剤グループ
薬剤科巡回：調剤リスク防止対策
- ・転倒転落グループ
病棟巡回：ベッド周囲の環境調査
- ・RMたよりの発行 12回
- ・医療安全推進週間（平成30年11月25日～12月1日）「転倒転落」をテーマに全職員に標語を募集し381作の応募があった。最優秀標語を11月中全職員が名札に入れることで医療安全の意識高揚に努めた
- ・医療安全研修
第1回「静脈血栓塞栓症予防について」7回開催 参加率70.2%
第2回「医療現場における個人情報の取扱い」5回開催 参加率67.1%

(3) 医薬品部会

「アナフィラキシー発見時のフローチャート」作成

(4) 医療機器部会

- ・医療機器安全使用のための講習会 2回
 - ①人工呼吸器をより安全に使用するために
 - ②輸液ポンプ等について

4 来年度の課題

- ・院内心肺蘇生講習会を、引き続き全職員に実施する
- ・院内全死亡例について診療経過を確認し、AI（死後CT）の必要性を検索する
- ・アレルギー入力率・画像確認率・病理診断確認率の100%をめざす
- ・医療安全研修の受講率の向上をめざす

（文責 諸岡 暁）

■緩和ケア委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也 (外科)	副委員長	柘植 範子 (3C病棟)
委員	市原 恒平 (外科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	川口 敬 (薬剤科)	委員	中村 公美 (リハビリテーション科)
委員	永嶋 泰玄 (リハビリテーション科)	委員	田中 慶子 (外来A)
委員	藤田 久美子 (外来D)	委員	尾崎 悦子 (3B病棟)
委員	木野村 信子 (6A病棟)	委員	神谷 ちとせ (5A病棟)
委員	吉村 康恵 (外来D)	委員	佐藤 理絵 (地域医療連携センター)
事務局	岩垣 哲也 (地域医療連携センター)		

2 開催回数 12回

3 平成30年度の取組実績

定例会による緩和ケア関連の検討や毎週実施する病棟回診に委員会スタッフ全員で取り組んだ。また、院内の緩和ケアの基となる「緩和ケアマニュアル」を改訂した。また、緩和ケアの院内への啓発とスキルアップ及び共通認識を持つことを目的として、PEACE（日本緩和医療学会・緩和ケアプログラム）を用いた勉強会を外部講師や委員講師により定期開催し、3月23日～24日の2日間にかけて「がんに関わる医師への緩和ケア研修会」を自院にて開催し、院長をはじめ8名の医師が修了した。

在宅療養においても緩和ケアのニーズが増す中、「地域がん診療病院」として地域の医療機関との連携の強化に引き続き取り組んでいきたいと考えている。



〔静岡県立静岡がんセンター講師による緩和ケア勉強会の様子〕

4 来年度の課題

- ・緩和ケア研修会の開催
- ・病棟回診及び勉強会の充実と開催
- ・必要な薬剤、医療器具の導入
- ・地域がん診療連携拠点病院との緩和ケア関連の連携強化

(文責 梶本 徹也)

■広報委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	矢田 大輔（産婦人科）～8月
副委員長	高橋 康人（腎臓内科）9月～	委員	辻野 大助（糖尿病・内分泌・血液内科）
委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）	委員	鍋島 雄和（中央放射線科）
委員	高橋 良太（リハビリテーション科）	委員	藤井 文音（薬剤科）
委員	遠藤 里花（6A病棟）	委員	東川 真理（5B病棟）
委員	加藤 菜緒（病院総務課）	委員	露木 秀俊（医事課）
委員	高田 恭平（医事課）	事務局	角入 あゆ美（病院経営課）

2 開催回数

4回（6月、9月、12月、3月）

3 平成30年度の取組実績

①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成20年7月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年4回（4月、7月、10月、1月）、発行部数は92,200部で富士市内の全世帯に配布している。病院だより編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び疾患予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝えるため、掲載記事の選定や内容について議論を行った。なお、病院だより第41号（平成30年4月20日発行）から紙面をリニューアルして発行している。

②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを生かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し、主に更新内容の確認や取り組み発信エリアの活用について検討した。また、広報媒体として外来表示盤やエントランスホール広告モニターを活用し当院の情報を発信した。

4 来年度の課題

病院だよりでは、当院の最新情報、健康や予防に関する情報を掲載していく。ウェブサイトについては、トップページ取り組み発信エリアを活用した情報発信に努める。引き続き、外来表示盤やエントランスホール広告モニターも活用しながら情報発信していく。

（文責 大沼 幹雄）

■食堂・売店検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）	委員	外山 卓矢（臨床検査科）
委員	大森 知枝（中央放射線科）	委員	岩本 一徳（薬剤科）
委員	古郡 朝子（栄養科）	委員	角入 あゆ美（病院経営課）
委員	池邊 貴子（売店職員）	委員	小川 美香（食堂職員）
事務局	中川 貴裕（病院総務課）	事務局	堤 恭子（病院総務課）

2 開催回数

4回

3 平成 30 年度の実績

- ・ 食堂および売店メニューの検討
- ・ 食堂および売店の事業計画を審議し翌年度 1 年間の継続を承認
- ・ 食堂テイクアウト弁当メニューの新設

4 来年度の課題

令和元年度は食堂の営業時間短縮に伴う、収支の改善を注視していく。

（文責 伊藤 すみ子）

■経営改革推進委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	齋藤 正美（4B病棟）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	玉舟 正弥（病院経営課）		

2 開催回数

10回（毎月第4水曜日）

3 平成30年度の取組実績

①富士市立中央病院第三次中期経営改善計画の策定

平成30年度までとなる第二次中期経営改善計画を引き継ぎ、更なる経営改善を図るため、平成28年度に策定した「富士市立中央病院新改革プラン」で追加された項目を盛り込んだ、第三次中期経営改善計画を策定した。

②単年度事業計画書について

平成26年度からの5カ年計画として策定した第二次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、平成30年度事業計画書を作成し院内周知するとともに、平成29年度事業計画の自己評価を行った。

4 来年度の課題

平成30年度事業計画の自己評価及び平成30年度で終了した第二次中期経営改善計画の総括としての検証を行い、富士市立中央病院経営懇話会による外部評価を実施し、結果を公表する。

また、令和元年度事業計画の各事業の進行管理を行う。

（文責 後藤 博一）

■化学療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	佐伯 千里 (消化器内科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	川口 敬 (薬剤科)
委員	野澤 里美 (外来A)	委員	白井 さつき (外来B)
委員	小林 宏美 (6 A病棟)	委員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)
委員	勝亦 由美 (7 B病棟)	委員	諸星 宮子 (3 B病棟)
委員	遠藤 喜巳子 (5 B病棟)	事務局	杉山 彩 (医事課)
事務局	川本 悦子 (医事課)		

2 開催回数

15回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 12回 臨時開催 3回

3 平成30年度の取組実績

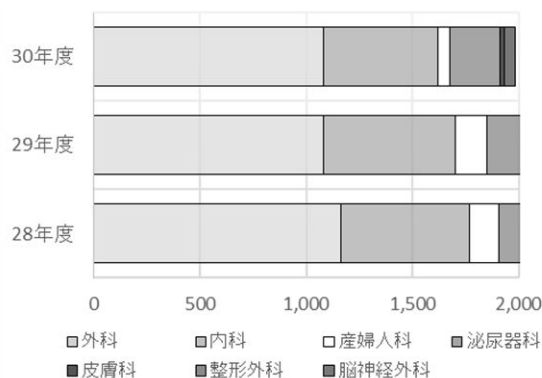
年間を通して新規レジメンの検討・承認、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度12種類の検討・承認を行った。また、免疫チェックポイント阻害薬が使用開始され、個々の症例から運用を検討した。その他、抗がん剤取扱い基準、過敏反応の対策シート、テラルピシン膀胱内注入療法の運用基準の作成、レジメン集について検討を行った。

4 来年度の課題

免疫チェックポイント阻害薬の運用上での問題点の検討と対策、地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査とレジメン集の整備、カンサーボードを含めたがんセンターなど他施設との連携、副作用対策、内服抗がん剤の運用を検討課題とする。

科別レジメン適応件数

診療科	28年度	29年度	30年度
外科	1,164	1,079	1,084
内科	606	625	537
産婦人科	137	146	55
泌尿器科	124	177	235
皮膚科	16	23	19
整形外科	1	1	0
脳神経外科	10	33	54
総数	2,058	2,084	1,984



(文責 藤井 常宏)

■診療材料検討委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	山城 秀樹 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	高野 裕樹 (外科)	委員	井ノ上 裕彬 (整形外科)
委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	川口 敬 (薬剤科)	委員	杉山 伸一 (中央放射線科)
委員	杉山 弘一 (臨床工学科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	森本 康江 (手術室)	委員	田島 眞弓 (外来C)
委員	本間 功武 (感染対策室)	委員	宇佐美 雄二 (病院経営課)
委員	杉山 彩 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	堤 恭子 (病院総務課)	事務局	佐山 侑希 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2月曜日)

3 平成30年度の取組実績

- ① 新規診療材料等の採択に関する検討
 - ・新規採用 46件 (規格違い商品含む)
- ② SPD委託業者により価格削減提案された商品採用の承認等
 - ・切替提案商品 (規格違い含む) 46件、現行品削減件数 48件
 - ・年間削減試算額 2,304万円
- ③ 診療材料に係る価格協力要請説明会の実施

4 来年度の課題

引き続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

(文責 阪本 宏志)

■ ICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科)	副委員長	野田 靖人 (脳神経外科)
副委員長	齋藤 幸子 (集中治療室)	委員	田口 真吾 (心臓血管外科)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	高橋 康人 (腎臓内科)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	委員	深澤 史朗 (リハビリテーション科)
委員	野澤 治 (集中治療室)	委員	渡邊 葉子 (集中治療室)
事務局	杉山 彩 (医事課)	事務局	高田 恭平 (医事課)

2 開催回数

5回 (第3月曜日)

3 平成30年度の取組実績

(1) ICUの運営

平成30年度診療報酬改定に伴うSOFAスコアの記録について、ICU入室中の患者に対する疾患別リハビリテーションの介入について、小児のICU入室について、などの検討を行った。

(2) 統計報告

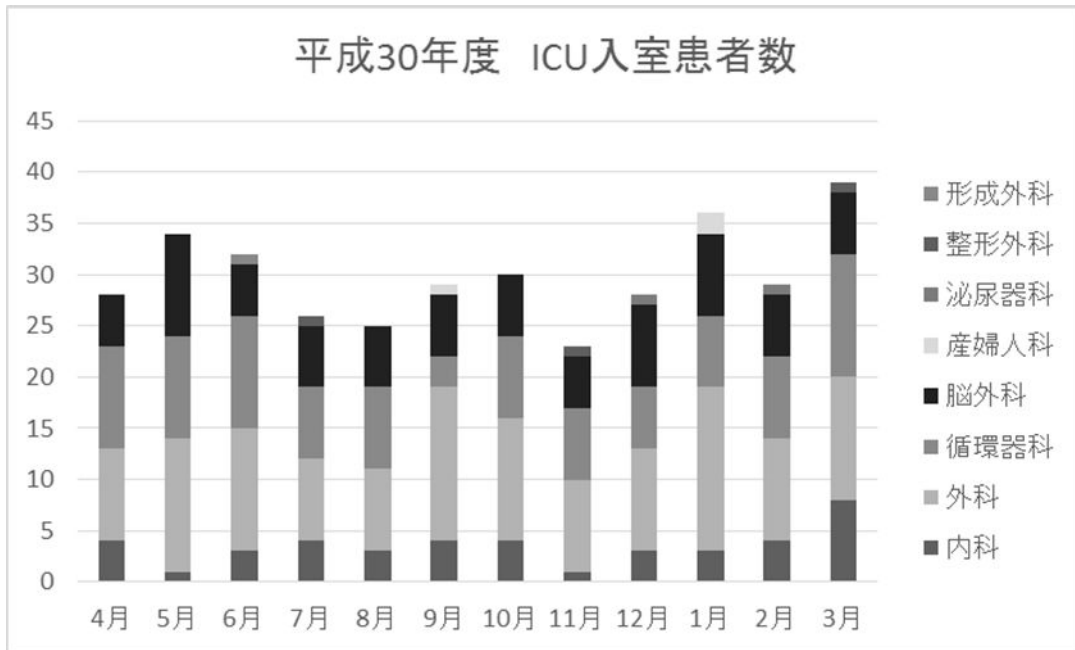
【表1】ICU科別月別入室患者数

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

【表1】ICU科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	4	1	3	4	3	4	4	1	3	3	4	8	42
外科	9	13	12	8	8	15	12	9	10	16	10	12	134
循環器科	10	10	11	7	8	3	8	7	6	7	8	12	97
脳外科	5	10	5	6	6	6	6	5	8	8	6	6	77
産婦人科						1				2			3
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科									1		1		2
整形外科				1				1				1	3
歯科口腔外科													0
形成外科			1										1
月合計	28	34	32	26	25	29	30	23	28	36	29	39	359



単位:人

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF	3	5	3	1	2	4	4	0	3	2	2	10	39
PMX													0
PE													0
月合計	3	5	3	1	2	4	4	0	3	2	2	10	39

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	3	3	2	0	2	1	4	1	3	1	2	2	24
PCPS	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	6
月合計	3	3	3	1	2	2	5	1	3	2	2	3	30

4 来年度の課題

セントラルモニターの更新について。

(文責 阪本 宏志)

■医療事故調査委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	内科系医師 (その都度指名)
委員	外科系医師 (その都度指名)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	北島 美鈴 (副看護部長兼専従リスクマネジャー)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)		

2 開催回数

5回 (案件により随時開催)

3 平成30年度の取組実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を5回開催し、5件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直し等を要請した。

4 来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組む。引続き一定程度以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

(文責 諸岡 暁)

■医療事故対策委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸 (院長)	副委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)
委員	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	井出 宣孝 (診療技術部長)	委員	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	北島 美鈴 (副看護部長兼専従リスクマネジャー)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)		

2 開催回数

なし (案件により随時開催)

3 平成 30 年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成 21 年 9 月に設置された。

平成 30 年度は、委員会を開催すべき医療事故はなかった。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

(文責 柏木 秀幸)

■病院情報システム運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久 (手術管理科・外科)	副委員長	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	三槇 真 (整形外科)
委員	榛葉 頼子 (産婦人科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	木元 慎一郎 (薬剤科)	委員	長峰 誠一郎 (臨床検査科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	幾嶋 邦人 (リハビリテーション科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	柘植 範子 (3C病棟)	委員	若本 奈緒美 (外来C)
委員	大塚 君子 (患者サポート室)	委員	森 育洋 (医事課)
事務局	塩澤 忠生 (医事課)	事務局	露木 秀俊 (医事課)

2 開催回数

10回 (月1回、第1月曜日)

3 平成30年度の取組実績

- ・処方箋を選んだ際に背面に隠れてしまう現象について審議
- ・リモートカルテのデモについて審議
- ・電子カルテの利用者アンケートの実施
- ・日本語変換 (ATOK) のマニュアル作成
- ・ふじのくにねっとでの診療情報におけるコスト連携について審議
- ・委員会の構成について報告

4 来年度の課題

電子カルテシステム及びその他の部門システムの安定した稼働を目指す。また、端末の更新を行い、院内の医療情報環境整備に努めていく。

来年度は診療情報管理委員会に統合され、病院情報システム運営部会として病院情報システムについて検討を行う。

(文責 良元 和久)

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	高橋 康人（腎臓内科）	副委員長	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	野澤 里美（外来A）	委員	齋藤 幸子（集中治療室）
委員	田中 慶子（外来A）	委員	小澤 花子（外来A）
事務局	露木 秀俊（医事課）	事務局	岡本 功（医事課）

2 開催回数

12回（毎月1回、第3水曜日）

3 平成30年度の取組実績

- ・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告（表1）、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・透析にかかわる各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・災害時における拠点病院としての役割や透析患者への対応について確認を行った。
- ・透析機器の運用について確認を行った。

血液透析施行患者数	263人	（血液透析施行件数 2,799件）
腹膜透析診療患者数（年度末）	11人	
うち血液透析＋腹膜透析併用療法患者数	0人	
維持透析導入患者数	94人	（血液透析 92人、腹膜透析 2人）
急性血液浄化施行患者数	72人	（114件）
うち持続血液濾過透析	49人	（55件）
エンドトキシン吸着療法	7人	（7件）
二重濾過血漿交換	6人	（6件）
血漿交換	2人	（2件）
白血球除去療法	8人	（44件）

表 1 - 透析室水質管理表 (平成 30 年度)

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4 月	0.00762	0	0.00076	0
5 月	0.00663	0	0.00075	0
6 月	0.00763	0	0.00076	0
7 月	0.00752	0	0.00077	0
8 月	0.00762	0	0.00076	0
9 月	0.00761	0	0.00076	0
10 月	0.00880	0	0.00076	0
11 月	0.00793	0	0.00075	0
12 月	0.00981	0	0.00076	0
1 月	0.00853	0	0.00074	0
2 月	0.00762	0	0.00076	0
3 月	0.00865	0	0.00076	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4 月	0.00076	0	0.00076	0	⑤ ⑥
5 月	0.00076	0	0.00075	0	⑦ ⑧
6 月	0.00076	0	0.00076	0	⑨ ⑩
7 月	0.00077	0	0.00077	0	① ②
8 月	0.00076	0	0.00076	0	③ ④
9 月	0.00076	0	0.00076	0	⑤ ⑥
10 月	0.00076	0	0.00076	0	⑦ ⑧
11 月	0.00075	0	0.00075	0	⑨ ⑩
12 月	0.00076	0	0.00076	0	① ②
1 月	0.00074	0	0.00074	0	③ ④
2 月	0.00076	0	0.00076	0	⑤ ⑥
3 月	0.00076	0	0.00076	0	⑦ ⑧

4 来年度の課題

- ・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。
- ・新規導入患者の増加への対応について検討していく。

(文責 高橋 康人)

■周産期医療機器管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	松岡 諒 (小児科)
委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)	委員	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	堤 恭子 (病院総務課)	委員	勝間田 賢 (臨床工学科)
事務局	臨床工学科		

2 開催回数

3回開催

3 平成30年度の取組実績

- 1) 周産期に係わる医療機器 (主に保育器、分娩監視装置、搬送用保育器、インフュージョンポンプ) の更新計画に基づいて医療機器の申請を行った。
- 2) 周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。
- 3) 小児科用閉鎖式保育器1台購入。

4 来年度の課題

- 1) 委員会から要望した機器は、病院のご理解を頂き徐々に整備されている。今後も引き続き「選ばれる病院」方針に沿った、医療機器の適正な申請、運用を行っていきたい。
- 2) 周産期医療の安心・安全な提供ができるように委員会活動を行っていきたい。

(文責 矢田 大輔)

■地域連携運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司(副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	村上 宏史(整形外科)
委員	高木 省一(中央放射線科)	委員	勝又 千壽子(看護部長室)
委員	芹澤 広樹(病院経営課)	委員	森 育洋(医事課)
委員	遠藤 さよ子(地域医療連携センター)	委員	中村 三千代(地域医療連携センター)
事務局	岩垣 哲也(地域医療連携センター)	事務局	加藤 千代美(地域医療連携センター)

2 開催回数

12回

3 平成30年度の取組実績

- ・新設した地域医療連携センター（地域医療連携室・患者サポート室）の業務分担等の院内や富士市医師会等関係機関への周知を行った。
- ・「地域医療支援病院」としての役割と紹介率及び逆紹介率向上のための具体的な方策を検討し取り組んだ。
- ・富士市医師会と「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」を共同開催し、情報交換や症例検討を行った。
- ・病診連携をより推進する手段のひとつとして医師の顔写真入り紹介冊子を刊行し、医師会等に配付した。
- ・スムーズな転院を目的に市内有床医療機関との連絡会を開催し、意見交換を行った。
- ・「Human Bridge」の機器更新に合わせて「相談記録機能」を追加し、地域医療連携センターで統一した統計に取り組んだ。
- ・ふじのくにバーチャルメガホスピタル「ふじのくにねっと」について、開示件数、参照件数の増加を図った。
- ・地域連携の課題などにスポットをあてたWeb研修会を開催した。

4 来年度の課題

- ・「地域医療支援病院」として紹介率及び逆紹介率の維持、向上
- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の年間2回の開催
- ・紹介患者予約枠の稼働率の向上
- ・病診連携の推進のための返書率向上
- ・「医師紹介冊子」の発行
- ・「連携安心カード」、「ふじのくにねっと」の運用と普及啓発

(文責 笠井 健司)

■患者サービス向上委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子(副院長兼看護部長)	副委員長	加藤 努(整形外科)
委員	外岡 雄二(精神神経科)	委員	柏木 里沙子(臨床検査科)
委員	佐藤 実香(薬剤科)	委員	大石 悦子(副看護部長)
委員	勝山 弘子(7A病棟)	委員	田島 真弓(外来C)
委員	渡邊 裕子(患者サポート室)	委員	小澤 花子(外来A)
委員	本多 すみ江(7A病棟)	委員	市川 恵未(病院総務課)
委員	川本 悦子(医事課)	委員	斉藤 美智代(ニチイ)
委員	千須和 恵(ニチイ)	事務局	角入 あゆ美(病院経営課)

2 開催回数

12回(毎月1回、第4木曜日)

3 平成30年度の取組実績

- (1) 毎月開催される管理会議、院内連絡会議及び医局会におけるお礼状の報告
- (2) あいさつ運動(5月、1月の各月3日間)
- (3) 院内掲示物巡回(6月28日)
- (4) 正面玄関南側花壇における花苗の植え替え(6月と11月に富士市花の会の協力を得て実施)
- (5) 正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え(5月、7月、10月、12月)
- (6) 院内ギャラリーの運営

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
4月	伊藤 晴美 油彩画展	伊藤 晴美	絵画
5月	ききょうの郷 デイケアギャラリー展	ききょうの郷	ぬり絵、手芸品ほか
6月	斎藤 弥世 ねこ展	斎藤 弥世	絵画、イラスト
7月	赤池正裕写真展<日本の美>	赤池 正裕	写真
8月	色鉛筆画展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
9月	癒しの仲間たち	木村 弘志	アクリル画

展示月	展 示 会 名	団 体 名	出展作品
10 月	色とりどり・パステルフラワー展	内藤 恵子	パステル画
11 月	似顔絵アートの会展示会	似顔絵アートの会	絵画
12 月	山行展示会	富士市五十雀山歩会	写真
1 月	Flower art photo	室伏 淳史	写真
2 月	ききょうの郷 デイケア展示会	ききょうの郷	ぬり絵、手芸品ほか
3 月	色鉛筆画展示会	ふじのふもと色鉛筆アートの会	色鉛筆画

(7) 院内コンサート

- ・富士川ウインドアンサンブル（8月3日）
- ・元吉原ウインドアンサンブル（12月11日）

(8) 接遇研修 アサーティブコミュニケーション研修

（10月29日・31日、1月29日）

講師：中北薬品株式会社マナーインストラクター部 田代 公子 先生

(9) 各所属への富士市役所職員スマイルブックの配布

(10) 廃棄消防ホースを利用した雨傘ホルダーの試行導入

(11) 夜間・休日における1・2階トイレの閉鎖とコール受信に関する検討

(12) あいさつ運動の実施時期・時間に関する検討

(13) 病院機能評価指摘事項（履物の汚れ・踵）に関する検討

(14) エスカレーター稼働時間に関する検討

4 来年度の課題

来年度も引き続き、お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、院内ギャラリーにおける展示会の開催、院内コンサートの開催に取り組む。

花壇については、当院単独の管理となるため、費用面を考慮し、効率的な管理ができるよう検討する。接遇研修については、患者さんアンケート結果と職員満足度調査結果をもとに内容や回数を検討し、医師も参加しやすく、より効果的な研修となるよう努める。

（文責 伊藤 すみ子）

■学術活動推進委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	矢田 大輔 (医局長:産婦人科) ~8月
副委員長	高橋 康人 (医局長:腎臓内科) 9月~	委員	坪井 一人 (外科) ~12月
委員	鈴木 俊雅 (外科) 1月~	委員	大石 悦子 (副看護部長)
委員	森本 康江 (手術室)	委員	鈴木 和訓 (中央放射線科)
委員	小林 正典 (薬剤科)	委員	角入 あゆ美 (病院経営課)
委員	岩垣 哲也 (地域医療連携センター)	委員	露木 秀俊 (医事課)
事務局	秋山 英希 (病院総務課)		

2 開催回数

11回 (毎月1回、第3水曜日)

3 平成30年度の実績

学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

- ・【第33回富士シンポジウム】平成30年6月7日(木)大会議室/参加者101名
富士市医師会との共催事業として、中央病院から2題、医師会から3題の計5題の発表に対し、それぞれ指定討論方式でシンポジウムを開催した
- ・【第18回市民公開講座】平成30年5月29日(火)大会議室/参加者115名
「いくつになっても寝たきりにならないために!! 健康寿命を延ばすための秘訣」と題して、佐伯千里消化器内科部長より「慢性疾患とサルコペニア」、加藤努整形外科部長より「整形疾患とフレイル」の内容で講座を行った
- ・【第35回院内学術集会】平成30年8月31日(金)大会議室/参加者166名
2部構成として、第1部では一般演題発表(診療部・診療技術部・看護部から3題ずつの計9演題)、第2部では「当院における病院経営の現状と未来」をテーマにシンポジウムを行った
- ・【第19回市民公開講座】平成30年9月19日(水)ロゼシアター/参加者121名
東京慈恵会医科大学より脳神経外科学講座主任教授・同大学附属病院脳卒中センター長の村山雄一氏を招き、「切らずに治す脳卒中」の内容で講座を行った
- ・【平成29年度病院年報】の発行
- ・【学術雑誌Vol. 35, 2018】の発行

4 来年度の課題

以下の3主要事業を実施する。「富士シンポジウム」は、統一したテーマで開催し、情報共有を図る。「市民公開講座」は、院外講師を2回招き、健康管理に役立つ情報を発信する。「院内学術集会」は、一般演題発表に留まらず、院内全体の課題等に関するシンポジウムを開催する。

病院年報を発刊する。単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく。

(文責 笠井 健司)

■病棟委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	河野 優（神経内科）
委員	藤井 常宏（糖尿病・内分泌・血液内科）	委員	高坂 直樹（呼吸器内科）
委員	金井 友哉（消化器内科）	委員	高橋 康人（腎臓内科）
委員	富永 光敏（循環器内科）	委員	田口 真吾（心臓血管外科）
委員	松岡 諒（小児科）	委員	良元 和久（外科）～12月
委員	鈴木 俊雄（外科）1月～	委員	加藤 努（整形外科）
委員	藤田 吉彦（形成外科）	委員	野田 靖人（脳神経外科）
委員	森下 ナオミ（皮膚科）	委員	土井 貴之（産婦人科）～12月
委員	佐藤 あずさ（産婦人科）1月～	委員	渡辺 勝（眼科）
委員	黒田 健斗（耳鼻咽喉科）～9月	委員	高津 南美子（耳鼻咽喉科）10月～
委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	高木 省一（中央放射線科）	委員	佐野 達哉（臨床工学科）
委員	小俣 朋子（栄養科）	委員	和泉 裕美子（リハビリテーション科）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	小野田 智恵子（3 B病棟）	委員	鈴木 早苗（4 A病棟）
委員	秋山 ゆかり（5 A病棟）	委員	小林 由美（6 B病棟）
委員	植松 和子（7 B病棟）	委員	中村 三千代（地域医療連携室）
委員	芹澤 広樹（病院経営課）	委員	渡辺 利英（病院総務課）
委員	森 育洋（医事課）	事務局	木内 啓人（病院経営課）

2 開催回数

12回（毎月1回、第2水曜日）

3 平成30年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき次年度の方針を検討した。効率的な病床運用の観点から、4 A病棟を産科病棟から産婦人科病棟に改めることとした。

また、混雑時の病床利用について病棟アンケートにより現状を把握し、他病棟に入った患者対応の確認と、スムーズな転院・退院に向けて富士市医師会に協力依頼をすることを決定した。

その他、年2回、病棟と診療技術部各科での倫理ノート利用状況を確認した。

4 来年度の課題

適切な退院調整を行いながら病床利用率を向上させていくことを目指して、病棟業務の課題に取り組んでいく。

（文責 加藤 努）

■勤務環境改善委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	後藤 博一（総括部長兼泌尿器科部長）	委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
委員	勝又 千壽子（副看護部長）	委員	井出 宣孝（診療技術部長）
委員	大沼 幹雄（事務部長）	委員	芹澤 広樹（病院経営課長）
委員	渡辺 利英（病院総務課長）	委員	森 育洋（医事課長）
委員	杉沢 利次（参与）	事務局	鈴木 裕子（病院総務課）

2 開催回数

3回

3 平成 30 年度の取組実績

（1）富士市立中央病院勤務環境改善委員会の設置（平成 30 年 4 月 1 日）

- ・医療従事者の勤務環境改善等の計画の策定・実施に関すること
- ・医療従事者の勤務環境改善等の計画の周知・徹底・評価に関すること
- ・その他医療従事者の勤務環境改善等に必要なこと 以上の事項を所掌する。

（2）検討内容等

- ・長時間労働の解消について
- ・時間外労働休日労働に関する協定届及び特別条項について
- ・医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組について
- ・勤務医の負担の軽減及び処遇の改善計画について
- ・看護師の負担の軽減及び処遇の改善計画について
- ・働き方改革について
- ・医師の労働と自己研鑽の考え方等について
- ・時間外勤務の実績について
- ・長時間勤務による健康障害防止のための面談実施について
- ・36 協定の締結について

4 来年度の課題

富士市立中央病院に勤務する医療従事者の勤務環境の改善及び負担軽減等について引き続き検討し、長時間労働の解消に努める。

医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善計画を策定する。

（文責 柏木 秀幸）

■外来委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	藤谷 暢子 (眼科)
委 員	辻野 大助 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委 員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委 員	佐伯 千里 (消化器内科)	委 員	三川 秀文 (循環器内科)
委 員	秋山 直枝 (小児科)	委 員	鈴木 俊雅 (外科)
委 員	三橋 真 (整形外科)	委 員	西村 礼司 (形成外科)
委 員	廣津 竜也 (脳神経外科)	委 員	森下 ナオミ (皮膚科)
委 員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委 員	榛葉 頼子 (産婦人科)
委 員	高津 南美子 (耳鼻咽喉科)	委 員	道本 顕吉 (放射線科)
委 員	影山 佳世 (麻酔科)	委 員	外岡 雄二 (精神神経科)
委 員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委 員	鈴木 英昭 (臨床検査科)
委 員	遠藤 佳秀 (中央放射線科)	委 員	勝間田 賢 (臨床工学科)
委 員	深澤 史朗 (リハビリテーション科)	委 員	渡邊 浩臣 (薬剤科)
委 員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委 員	野澤 里美 (外来看護長)
委 員	田中 慶子 (外来A)	委 員	白井 さつき (外来B)
委 員	田島 眞弓 (外来C)	委 員	白戸 幸子 (外来D)
委 員	大塚 君子 (患者サポート室長)	委 員	芹澤 広樹 (病院経営課)
委 員	渡辺 利英 (病院総務課)	委 員	森 育洋 (医事課)
事務局	岡本 功 (医事課)	事務局	寺田 和子 (医事課)

2 開催回数

12回

3 平成30年度の取組実績

① 地域医療支援病院の承認に伴う初再診の取扱いについて

当院は、昨年度地域医療支援病院に承認されたことに伴い、平成30年1月より特別初診料、特別再診料の算定を開始した。院内・外の広報活動等により紹介率が向上したが、患者さんからの問合せに各診療科が適切に対応できるよう、随時マニュアルの更新を行った。

② 新規取得施設基準について

平成30年度の診療報酬改定に伴い、新規取得施設基準の報告及び説明を行った。また、今後も継続して外来診療に係わる新たな施設基準を取得できるよう、要件

を精査し、算定可能な加算等について提案した。外来の現状確認や対象患者の把握、算定までの運用を協議し、当委員会から加算についての周知及び算定案を院内全体に提示し、協力を仰いだ。

③ 外国人患者への対応について

今後、増加が予想される外国人患者の受診に備え、多言語医療通訳が 24 時間対応可能な体制を整備するため、言語等の問題点と課題を抽出すると共に、タブレット端末を使用したデモを行った。また、電波状況や使い勝手等を確認するため、外国人患者の診療時に試験的にタブレット端末による検証を行い、この実績を基に再度導入の必要性について協議した。

④ 待ち時間対策について

外来待ち時間の短縮を図るため、診療部に対して「診察前検査」等アンケートを行い、実態調査及び課題の把握に努めた。来年度から、当委員会が「患者待ち時間対策」を課題として引き継ぐため、現在担当の機能改善委員会の分析方法や対策の検証を行った。

4 来年度の課題

- ① 外来部門に係るさまざまな問題、課題を取り上げ、解決を図る。
- ② 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化に努め、地域医療の質向上を図る。
- ③ 地域医療支援病院における外来診療の役割について理解を深め、紹介率・逆紹介率の向上に努める。
- ④ これまで、病院機能改善委員会で課題としていた「外来患者の待ち時間対策」について、今後は当委員会が主体となり、アンケート調査等から得られた意見を基に、診療科ごとの現状を検証し協議していく。

(文責 笠井 健司)

■放射線安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	高木 省一 (中央放射線科)
委員	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)	委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	岡田 和教 (中央放射線科)	委員	鈴木 浩之 (中央放射線科)
委員	秋田 真弓 (中央放射線科)	委員	神田 直樹 (中央放射線科)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
委員	伴野 晃仁 (病院総務課)		

- ・安全管理責任者：高木 省一
- ・放射線取扱主任者：遠藤 一弘
- ・放射線取扱主任者 (安全管理担当者)：岡田 和教、鈴木 浩之、秋田 真弓、神田 直樹
- ・管理区域担当者：清水 則雄
- ・健康管理医：藤井 常宏
- ・施設管理責任者：渡辺 利英
- ・施設管理担当者：中川 貴裕
- ・法令担当者：伴野 晃仁

2 開催回数

1回

3 平成 30 年度の取組実績

- ・放射線障害防止法および予防規程等により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回 / 年
健康診断	2回 / 年
環境測定	2回 / 年
自主点検 (放射線治療室、RI 室、X線撮影装置)	2回 / 年
教育訓練 (定期)	2回 / 年
教育訓練 (新規)	8回 / 年
放射線管理状況報告書提出	1回 / 年
保健所立入検査	1回 / 年
RI 使用予定届提出	1回 / 年

- ・放射線モニタリングシステムを更新した。
- ・保健所立入り検査での助言について、全て改善を行った。

4 来年度の課題

保健所立入り検査結果について、指摘・文章・口頭指導事項なし。助言については、以下の通り。

- ・「医療機器の安全使用のための研修」を実施した場合、医療機器安全管理責任者に報告すること。また医療機器安全管理責任者は、医療安全委員会に報告すること。
- ・教育訓練を実施した際には、使用した資料を参加名簿とともに添付すること。
- ・6室更衣室内に「使用中」ランプを設置すること。
- ・21室ロッカーを固定すること。

(文責 諸岡 暁)

■災害対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	後藤 博一 (総括部長兼泌尿器科部長)	委員	遠藤 泰彦 (病理診断科)
委員	高橋 康人 (腎臓内科)	委員	良元 和久 (手術管理科・外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	石川 隆之 (臨床検査科)
委員	高木 省一 (中央放射線科)	委員	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	白戸 幸子 (外来D)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	森 育洋 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
委員	武吉 勇喜 (警備室)	外部委員	佐瀬 徳志 (※)
事務局	伴野 晃仁 (病院総務課)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

(※) 水道技術管理者・水道維持課長

2 開催回数

12回 (毎月第1火曜日)

3 平成30年度の取組実績

(1) 災害対策訓練の実施

- ・クロノロジー訓練 (参加者32名)

7月17日 (火)、DMAT隊員に講師を依頼し、事務部の正規職員を対象に実施した。災害時の出来事に関して、何をどのような方法で記録するのか、といった基本的な知識と技術について訓練を行った。

- ・救護所訓練 (参加者21名)

11月17日 (土)、外部講師を招聘し、院内講師とともに診療部と看護部職員を対象に救護所訓練を実施した。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた外傷初期診療訓練、看護部は2次トリアージ訓練 (理論と実習) を行った。

(2) 災害対策用資機材の配備

- ・真空パック毛布 (非常用簡易ベッド、職員・帰宅困難者用) 【300枚】

平成25年度に配備した段ボール製簡易ベッド (150床) 及び、職員・帰宅困難者用の寝具、防寒用として配備した。

なお、入院患者用は、寝具業務委託内で対応。

(3) 職員・帰宅困難者用備蓄食料の配備 (入院患者用は患者給食業務委託内で配備済)

- ・サバイバルフーズ 【24ケース/1,440食】

内訳：①ファミリーセット (チキンシチュー&クラッカー) ×12ケース

②ファミリーセット（野菜シチュー&クラッカー） ×12ケース

※備蓄食料の見直しを行い、平成28年度より6ヵ年計画で25年保管可能な「サバイバルフーズ」の配備を行っている（3年目）

（4）DMATの活動・強化・育成

- ・毎月第2木曜日の15時より部会を開催
- ・退職により隊員1名の減員、静岡DMATリミテッド隊員1名の日本DMAT資格取得
- ・富士市消防本部救急医療週間訓練【9月7日（金）・中央公園】への協力参加
- ・平成30年度第3回中部ブロックDMAT技能維持研修【9月29日（土）－30日（日）・愛知】の受講
- ・平成30年度中部ブロック実動訓練【10月13日（土）－14日（日）・富山】への参加
- ・緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練【11月4日（日）・航空自衛隊浜松基地】への参加
- ・院内救護所訓練【11月17日（土）・中央病院】への協力参加
- ・富士市医師会救護所訓練【11月30日（金）・医師会館】へ協力参加

4 来年度の課題

防災計画等マニュアルの改訂作業を進める。より現状に即した内容に改定し、災害への備えを強化する。

引き続き、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、災害対策訓練の継続開催を通して職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識向上を図り、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に行っていく。

（文責 諸岡 暁）

■防火管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副委員長	伊藤 すみ子 (副院長兼看護部長)
副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)	副委員長	渡辺 利英 (病院総務課)
委員	藤井 常宏 (糖尿病・内分泌・血液内科)	委員	高木 省一 (中央放射線科)
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	大石 悦子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	中村 三千代 (地域医療連携室)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
委員	武吉 勇喜 (警備室)	事務局	堤 恭子 (病院総務課)

2 開催回数

2回 (7月、11月)

3 平成30年度の取組実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回は7月30日に実施した。4B病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消防設備の説明、はしご車を用いた別館屋上からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

第2回は11月30日に実施した。第1回と同様の病棟避難訓練を5A病棟で行い、業者による消防設備の説明を受けた。その後、救助袋を用いた病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

4 来年度の課題

令和元年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

(文責 諸岡 暁)

■虐待対策委員会（G T I）

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	藤井 常宏 (救急室運営委員長)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 亮平 (小児科)
委員	勝又 千壽子 (副看護部長)	委員	野澤 里美 (外来A)
委員	田中 秀樹 (3 B病棟)	委員	滝澤 佐織 (4 B病棟)
委員	渡辺 利英 (病院総務課)	委員	森 育洋 (医事課)
委員	江村 宏子 (地域医療連携センター)	委員	遠藤 卓馬 (地域医療連携センター)
事務局	岩垣 哲也 (地域医療連携センター)		

2 開催回数

発生時随時開催

3 平成 30 年度の取組実績

児童虐待対応マニュアルに則り、虐待疑いを含めたケースへの速やかな対応を実施した。その結果、児童相談所への早期通告が実施できた。

今後も引き続き院内への周知を行い、虐待を疑う意識を持ち続けると共に、発生時の迅速な対応に取り組んでいく。

また、高齢者や障害者への虐待対応マニュアル及び DV 対応マニュアルの整備に取り組んでいく。

4 来年度の課題

- ・ 高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成と DV 対応マニュアルの作成
- ・ 職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催

(文責 諸岡 暁)

■臨床研修センター

1 組織及び設置目的

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する。（平成 27 年 1 月 1 日設置）

役 職	氏 名	役 職	氏 名
センター長	笠井 健司 (副院長兼腎臓内科部長)	副センター長	梶本 徹也 (外科部長)
指導主任	河野 優 (神経内科部長)	指導主任	良元 和久 (手術管理科部長)
臨床研修医	吉田 和博	臨床研修医	大原 佑生
臨床研修医	塩田 悠乃	臨床研修医	白川 毅
臨床研修医	萩原 亘	臨床研修医	山崎 慎太郎
事務局	病院総務課		

※役割… 臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わり、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

2 開催回数

1 回（センター会議）

3 平成 30 年度の取組実績

- (1) 初期臨床研修医オリエンテーション実施
- (2) 初期臨床研修医に対する面談の実施、ローテーションの調整
- (3) ウェブサイトの検討
- (4) 臨床研修案内の作成
- (5) 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣（2 名）
- (6) スキルアップ研修の企画及び実施、院外研修への初期臨床研修医の派遣
- (7) 医学生に対する合同説明会参加
- (8) 2020 年度からの臨床研修プログラム作成

平成 30 年度プログラム一例

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	内 科				麻酔科	放射線科	内 科		皮膚科	産婦人科	小児科	
2 年目	内 科			救急	耳鼻科	地域医療	救 急		精神科	小児科	産婦人科	内科

4 来年度の課題

引き続き、初期臨床研修医の研修を支援していくとともに、当院初期臨床研修の充実を図っていく。

（文責 笠井 健司）

■富士市透析防災ネットワーク

会長の笠井副院長が中心となり平成 22 年に発足。医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

1 組織

会 長 笠井健司(富士市立中央病院副院長兼腎臓内科部長)

議 長 富士第一クリニック

副議長 聖隷富士病院、富士市立中央病院

(参加透析施設)

加藤クリニック、共立蒲原総合病院、新富士病院、聖隷富士病院、東名富士クリニック、富士市立中央病院、富士第一クリニック (五十音順)

2 開催回数

日	時	場 所	内 容
H30. 5. 17	18:30	中央病院	第 1 回実務者会議
H30. 6. 21	18:30	中央病院	第 2 回実務者会議
H30. 7. 19	18:30	中央病院	第 3 回実務者会議
H30. 8. 23	18:30	中央病院	第 4 回実務者会議
H30. 9. 6	18:30	中央病院	第 5 回実務者会議
H30. 10. 13	18:30	市消防庁舎 大会議室	富士市防災ネットワーク講演会
H30. 10. 25	18:30	中央病院	第 6 回実務者会議
H30. 11. 22	18:30	中央病院	第 7 回実務者会議
H31. 1. 31	19:00	東名富士クリニック	透析機器研修
H31. 3. 26	19:00	中央病院	施設代表者会議

3 平成 30 年度の取組実績

○MCA 無線使用講習会の開催【平成 30 年 6 月 21 日 (木) 中央病院】

各施設に配備した MCA 無線機の使用方法等について講習会を開催した。

また、7 月からは毎月第 2・4 木曜日に MCA 無線の通信訓練を開始した。

○透析機器研修の開催【平成 31 年 1 月 31 日 (木) 東名富士クリニック】

参加者 50 名

○富士市透析防災講演会の開催【平成 30 年 10 月 13 日 (木) 市消防庁舎】

参加者 130 名

「南海トラフ巨大地震に備えて」 (富士市総務部防災危機管理課 伊藤 圭裕)

「透析中の地震対応について」 (富士第一クリニック 清水 直明)

「2018 版 災害を乗り切るために知っておきたいこと」

(富士市透析防災ネットワーク会長 笠井 健司)

4 来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行い災害発生時に患者さん自身がどのように動くべきか考えるきっかけ作りをする。また、第2種拠点透析施設を中心として透析機器研修を行うとともに、MCA 無線を利用した情報伝達訓練を実施し施設間の連携強化を図る。

なお、平成30年度より「富士市地域防災計画」において当ネットワークの役割が明文化されたことを踏まえ、実情に則した行動マニュアルの改訂を行い有事の際に備えていく。

(文責 笠井 健司)

■利益相反（COI）委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）	委員	加藤 寛史（薬剤科）
委員	大沼 幹雄（事務部長）	事務局	伴野 晃仁（病院総務課）

2 開催回数

3回（1回は迅速審査）

3 平成30年度の実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成27年4月1日に設置した。

また、本年度4月1日に臨床研究法が施行されたことに伴い、法に基づく利益相反管理の内容について共通理解を行うと共に関係機関との整合性を図ったうえで当院における利益相反規定等を見直し改正を行った。

なお、平成30年度は、迅速による審査を1件行った。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 諸岡 暁）

■NICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝 (小児科)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	松岡 諒 (小児科)	副委員長	齋藤 正美 (4 B病棟)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	角替 季樹 (小児科)
委員	鈴木 亮平 (小児科)	委員	鈴木 早苗 (4 A病棟)
委員	大井 洋子 (4 A病棟)	委員	滝澤 佐織 (4 B病棟)
事務局	塩澤 忠生 (医事課)	事務局	露木 秀俊 (医事課)

2 開催回数

なし (必要時開催)

3 平成 30 年度の実績

NICU 運営委員会は、NICU の円滑な管理・運営を図るため、平成 27 年 5 月に設置された。

平成 30 年度は、委員会を開催すべき問題等はなかった。

4 来年度の課題

周産期カンファレンスで問題となった点や NICU 運営の問題点発生時に、必要に応じて開催する。

(文責 秋山 直枝)

■地域がん診療病院運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	大沼 幹雄 (事務部長)
委員	後藤 博一 (診療参事兼統括部長)	委員	藤井 常宏 (化学療法委員会)
委員	梶本 徹也 (緩和ケア委員会)	委員	佐伯 千里 (消化器内科)
委員	良元 和久 (クリニカルパス委員会)	委員	井出 宣孝 (診療技術部長)
委員	加藤 寛史 (薬剤科)	委員	勝又 千壽子 (副看護部長)
委員	芹澤 広樹 (病院経営課)	委員	島田 英介 (医事課)
事務局	地域医療連携室		

2 開催回数

2回 (通年での取り組み)

静岡県によるヒアリングへの対応

3 平成30年度の取組実績

「地域がん診療病院」の指定要件改正に対する当院の現状を報告すると共に、静岡県のヒアリングを経て、機能維持と充足について共通認識を持って対応していくことを確認した。

また、グループ指定先である静岡県立静岡がんセンターとの交流や連携の強化について検討し、院内への周知と協力依頼を行った。

静岡がんセンターでのがんセンターボードや緩和ケア地域連携カンファレンスに参加させていただき、交流を深めることに努めた。

がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会を自院で開催し、修了者を増やすことができた。

今後も継続して指定いただけるよう取り組んでいく。

4 来年度の課題

- ・自院がんセンターボードの充実 (多職種参加型がんセンターボードの実施)
- ・地域の方々へのがん教育の実施

(文責 藤井 常宏)

■リハビリテーション運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	加藤 努（整形外科）	副委員長	野田 靖人（脳神経外科）
委員	河野 優（神経内科）	委員	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	西村 礼司（形成外科）	委員	柘植 範子（3C病棟）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	前嶋 真理子（地域医療連携センター）
委員	岡本 功（医事課）	委員（事務局）	中村 公美（リハビリテーション科）
事務局	リハビリテーション科		

2 開催回数

平成30年度は3回開催（8月、10月、2月）

3 平成30年度の取組実績（議事内容）

第1回：「病院機能評価に向けた対応」

「病院機能改善委員会からの依頼について」等

第2回：「プール撤去について」

「リハビリ総合実施計画書の入力について」等

第3回：「リハビリ回診廃止及び多職種カンファレンスへの参加について」

「リハビリ適応基準の見直しについて」

「リハビリ処方について」

『心大血管疾患等リハビリテーション料』の施設基準取得について」等

4 来年度の課題

- ・リハビリ専門医または認定医の常勤配置を目指す。
- ・多職種連携を進める。
- ・「心大血管疾患等リハビリテーション料」の施設基準取得を目指す。

（文責 加藤 努）

■経営改善チーム

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	良元 和久（手術管理科・外科）
委員	阪本 宏志（循環器内科）	委員	佐伯 千里（消化器内科）
委員	井出 宣孝（診療技術部長）	委員	勝又 千壽子（副看護部長）
委員	芹澤 広樹（病院経営課長）	委員	寺田 和子（医事課）
委員	島田 英介（医事課）	事務局	木内 啓人（病院経営課）

2 開催回数

7回

3 平成30年度の取組実績

（1）病床利用率の安定化

月別在院患者病床利用率を病棟別・診療科別に算出し、病床利用状況を確認した。昨年度と比較し、急性期病床には大きな変化は見られなかったが、高度急性期病床は利用率が低調であった。また、連休後の病床利用率の回復に向けた予定入院患者の確保について、病棟委員会と診療部長会議を通じて依頼をした。

（2）DPCデータを用いた経営分析

薬剤管理指導料算定率の向上に向けて、薬剤管理指導件数や病院経営戦略セミナーでのベンチマーク結果を確認した。件数は増加しているが他院と比較して改善の余地があると判断し、他院への聞き取りによる業務の見直しを提案した。3月には、薬剤科から視察報告を受け、持参薬の初期対応を見直していくことを確認した。

（3）収益確保に向けた施設基準の整備

総合入院体制加算3の取得に向けて要件の確認を行い、診療情報提供料等の算定割合4割以上に向けて、現状把握と改善策を検討した。

4 来年度の課題

病院経営上の課題について、既存の所属や委員会の枠を越えて検討し、改善提案を院長に提言していく。特に、収益増加につながる改善策を検討していく。

（文責 後藤 博一）

■医療機器等導入機種選定委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	井出 宣孝（中央放射線科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	芹澤 広樹（病院経営課）
委員	渡辺 利英（病院総務課）		
事務局	堤 恭子（病院総務課）		

2 開催回数

12回（持ち回り1回を含む）

3 平成30年度の取組実績

病院事業に資する医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行うことを目的とした医療機器導入機種選定委員会を開催した。以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の能力、規格、機能、仕様等を審査した。

- ・電気メス
- ・心電図モニタ
- ・移動型X線撮影装置
- ・体外衝撃波結石破碎装置
- ・グリコヘモグロビン、グルコース分析装置
- ・アブレーション装置
- ・超音波画像診断装置
- ・全自動錠剤分包機
- ・耳鼻科内視鏡システム
- ・歯科ユニット

4 来年度の課題

令和元年度も医療機器等の購入に際し、最も適正な機器選定を行い、適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責 柏木 秀幸）

■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	高橋 康人（腎臓内科副部長）
副委員長	勝又 千壽子（看護部長室）	委員	12名

■終末期医療対策委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	勝又 千壽子（看護部長室）
委員	6名		

■内科専門研修プログラム管理委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	笠井 健司（副院長兼腎臓内科部長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	13名		

■医療機器等長期整備計画検討委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	大沼 幹雄（事務部長）	副委員長	渡辺 利英（病院総務課）
委員	10名		

■新病院建設検討委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	大沼 幹雄（事務部長）
委員	10名		

■喫煙対策委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（院長）	副委員長	伊藤 すみ子（副院長兼看護部長）
委員	14名		